

鳥羽市予算決算常任委員会会議録

第4日目

令和2年3月19日

### ○出席委員

|      |         |     |         |
|------|---------|-----|---------|
| 委員 長 | 浜 口 一 利 | 委 員 | 南 川 則 之 |
| 委 員  | 濱 口 正 久 | 委 員 | 瀬 崎 伸 一 |
| 委 員  | 片 岡 直 博 | 委 員 | 奥 村 敦   |
| 委 員  | 河 村 孝   | 委 員 | 山 本 哲 也 |
| 委 員  | 戸 上 健   | 委 員 | 坂 倉 広 子 |
| 委 員  | 坂 倉 紀 男 | 委 員 | 世 古 安 秀 |
| 議 長  | 木 下 順 一 |     |         |

### ○欠席委員

副 委 員 長 中世古 泉

### ○出席説明者

- ・ 中村市長 ・ 立花副市長 ・ 小竹教育長
- ・ 世古会計管理者
- ・ 山下企画財政課長、高浪副参事
- ・ 中村総務課長、平賀副参事
- ・ 山下市民課長、野村補佐、上村補佐、大矢係長、寺田係長、榊原係長
- ・ 勢力税務課長
- ・ 東川環境課長
- ・ 中井健康福祉課長、岡本副参事
- ・ 榎農水商工課長
- ・ 濱口観光課長
- ・ 中山建設課長
- ・ 世古定期船課長、矢田副参事、野呂補佐、寺本管理係長
- ・ 浜口水道課長、寺本補佐、杉田補佐、高見係長、清水係長、西根係長
- ・ 山本教委総務課長
- ・ 岩本学校教育課長
- ・ 岩井生涯学習課長
- ・ 清水議会事務局長
- ・ 清水監査委員事務局長
- ・ 前田消防長、鳥谷尾次長

○職務のために出席した事務局職員

次 長 兼 木 田 崇  
議事総務係長

(午前 9時00分 開議)

○浜口一利委員長 皆さん、おはようございます。

今日は4日目ということで、大変お疲れのところ、特別会計のほうを始めたいと思います。

それでは、ただいまから予算決算常任委員会を再開します。

本日は、特別会計5件と企業会計1件の当初予算を審査します。

早速ですが、議案第69号、令和2年度鳥羽市介護保険事業特別会計予算について、担当課長の説明を求めます。

健康福祉課長。

○中井健康福祉課長 おはようございます。

健康福祉課、中井でございます。よろしく願いいたします。

議案第69号、令和2年度鳥羽市介護保険事業特別会計予算について説明を申し上げます。

当初予算の273ページをご覧ください。

令和2年度鳥羽市介護保険事業特別会計予算の予算の総額は、歳入歳出それぞれ26億9,600万円で、前年度より2,590万円、約0.95%の減額となっております。

令和2年度は第7期介護保険事業計画の3年目となりまして、最終年度となることから、給付事業に関しましては前年度と大きく変わりございませんが、これまで取り組んできました介護予防や自立に向けた取組につきまして一層推進していくこととして、介護予防の歌を用いた体操での意識啓発や地域で自主的に運動に取り組んでいただいていますグループがこれまで以上に意欲的に活動を継続できるよう、支援等をしていきたいと考えております。

また、必要な方に必要な分だけ介護サービスを届けることができるよう、介護給付の適正化に取り組むなど、高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう努めていきたいと考えております。

それでは、予算の内容につきまして、先に予算説明資料により歳出を説明させていただき、その後に予算書により歳入の説明をさせていただきます。

では、予算説明資料の127ページをご覧ください。

最初に、上段の総務給与等管理費では、予算額6,078万2,000円を計上しております。内容としましては職員の人件費であり、前年度と大きな変動はございません。

次に、2段目の介護サービス等諸費給付事業では、予算額25億3,000万円を計上しております。説明欄のとおり、医療費等負担金につきましては25億3,000万円、前年度と比較して1,787万9,000円、約0.7%の減となっております。この予算額につきましては、給付実績に基づいて計上させていただいておりますが、要因といたしましては、ここ数年は近隣市町におきます入所施設等の新設もありませんので、施設サービス費の伸びが落ち着いているものと考えております。

次に、3段目の介護予防・生活支援サービス事業では、予算額3,496万8,000円を計上しております。内容といたしましては、要支援者の能力を最大限に生かす多様なサービスを提供することを目的に、介護予防・日常生活支援総合事業を行っております。事業内容につきましては、前年度と大きな変動はございませ

ん。

次に、一番下となります下段の包括的支援事業・任意事業では、予算額5,867万5,000円を計上しております。内容としましては、包括支援センターの運営に係る経費を計上しておりまして、地域ケア会議の充実や在宅医療・介護連携や認知症施策の推進に努めてまいります。こちらも事業内容に前年度と大きな変動はございません。

続きまして、128ページになります。

財政安定化基金償還金でございます。

予算計上額は800万円で、平成29年度に借りました2,400万円を均等償還する最終年度となります。

歳出は以上となります。

続きまして、歳入について説明させていただきます。

予算書のほうにお移りください。

予算書の278、279ページをご覧ください。

介護保険事業におきます歳入は、おおむね給付に基づいたものでございます。サービス給付の増減に伴う要素が大きく、保険料の改定や制度改正等がなければ大きく動くものではないことはご理解のとおりでございます。歳出の介護サービス等諸費給付事業の部分でも説明させていただきましたが、実績に伴って歳出が減少したことに伴いまして、全体的に前年よりも縮小した歳入の中で抜粋して説明をさせていただきます。

まず、1款保険料、1項介護保険料、1目第1号被保険者保険料でございます。

予算額は5億3,153万1,000円を計上しており、前年度より493万6,000円の減となっております。

節1現年度分特別徴収保険料では5億2万2,000円を計上しておりまして、前年度より278万4,000円の減となっております。要因としましては、1号被保険者数はほぼ横ばいの中で、特別徴収と普通徴収対象者の割合変更や所得階層の変動に伴うものでございます。収納率は100%としております。

節2現年度分普通保険料では3,018万9,000円を計上しておりまして、前年度より193万1,000円の減となっております。要因としましては、特別徴収同様に、徴収対象者の割合変更や所得階層の変動に伴うものでございます。収納率は87%としております。

節3滞納繰越分普通徴収保険料では132万円を計上しており、前年度より22万1,000円の減となっております。収納率は15%としております。

続いて、280ページ、281ページをお願いいたします。

下段の5款繰入金、1項一般会計繰入金について説明させていただきます。

1目介護給付費繰入金でございます。

予算額は3億1,642万2,000円を計上しております。介護給付費等の減によりまして、前年度より222万7,000円の減となっております。

続いて、2目地域支援事業繰入金について説明をさせていただきます。

1節介護予防・日常生活支援総合事業繰入金では予算額388万2,000円を計上しており、こちらは総

合事業の繰入れ分になります。

同じく2節包括的支援事業・任意事業繰入金では予算額1,129万3,000円を計上しておりまして、これは包括的支援事業・任意事業費の繰入れ分となります。

この1目介護給付費繰入金及び2目の地域支援事業繰入金の合計、これがサービス給付費に対する市負担分として一般会計より繰り入れた分となります。合わせて前年度より239万3,000円の減となっております。

次に、3目その他の一般会計繰入金について説明をさせていただきます。

1節職員給与等繰入金では予算額1,805万1,000円を計上しておりまして、職員の異動等により前年度より254万7,000円の減となっております。

2節事務費繰入金では予算額4,265万円を計上しておりまして、介護保険システムの委託料の減によりまして前年度より254万7,000円の減となっております。

最後に、3節保険料負担軽減繰入金は予算額1,933万2,000円で、これは第1号被保険者保険料の軽減措置に伴う公費負担分で、一度一般会計に繰入れされた国の分、県の分の負担分と合わせまして、市負担分も合わせまして繰り入れるものでございます。前年度より29万5,000円の減となっております。

歳入の説明は以上でございます。

これで介護保険事業特別会計予算の説明を終わります。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○浜口一利委員長 説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

よろしいですか。

(「なし」の声あり)

○浜口一利委員長 戸上委員、ありますか。

○戸上 健委員 特段ありません。頑張っていたきたいと思います。

○浜口一利委員長 それでは、質疑もないようですので、説明員交代のため休憩します。

(午前 9時11分 休憩)

(午前 9時16分 再開)

○浜口一利委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、議案第68号、令和2年度鳥羽市国民健康保険事業特別会計予算について、担当課長の説明を求めます。

市民課長。

○山下市民課長 おはようございます。

市民課の山下です。よろしくお願いいたします。

議案第68号、令和2年度鳥羽市国民健康保険事業特別会計予算の説明をさせていただきます。

まず、予算書のほうです。247ページをご覧ください。

歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ30億5,460万円とするものでございます。前年度より1億

560万円の増額で計上させていただきました。国民健康保険事業の財政運営は平成30年度から県一元化に伴いまして、財政見込みや予算編成については大きく変更となっております。本市におきましては、人口減少に伴いまして被保険者も減少しております。そして、保険税収入のほうも減少する一方で、保険給付費のほうは増加しております。今後も県の算定する納付金の動向に注視し、医療費の抑制のために健康福祉課と連携しまして保健事業を充実させていきます。

また、歳入確保の観点からは税務課と連携を図りまして、国民健康保険税の確保に努めてまいりたいと思います。

当初予算の説明資料のほう、123ページのほうをお願いします。

款1総務費、項1総務管理費、目1一般管理費、総務給与等管理費で、1億43万6,000円でございます。前年度より4,820万1,000円の増でございます。この増の要因ですけれども、市町村の事務の標準化を図るために、国が開発しました市町村事務処理標準化システムの導入と、令和3年3月から個人番号によるオンライン資格確認が始まりますので、そのシステム対応のための経費を計上しています。財源のほうは国庫補助金、県補助金のほうで措置されることとなります。

続きまして、項2徴収費、目1、中事業とも賦課徴収費で、405万5,000円でございます。こちらは税務課が担当しております保険税の収納率向上のための必要経費でございます。金額等は前年度と大きく変わりございません。

予算書のほうですけれども、249ページのほうをご覧ください。

款2の保険給付費で、21億771万1,000円でございます。前年度と比較しますと、1億3,529万円を増額計上しております。本市の被保険者数、先ほども申しましたが減少見込みであります。保険給付費のほうは増加傾向にあるため、こちらのほうは増額となっております。

その下の項1療養諸費は、17億9,936万7,000円でございます。

説明資料のほうにお戻りください。

123ページでございます。

療養諸費のうち目1一般被保険者療養給付費、一般被保険者療養給付費負担金で、17億7,635万2,000円でございます。一般被保険者の療養の給付に係る費用で、前年度と比較しますと9,926万9,000円の増加となっております。こちらのほうは給付費の伸びを勘案し、計上しております。一般被保険者数ですが、前年度と比較しますと134人減少しております。

目2退職被保険者等療養給付費で、10万円でございます。退職被保険者の療養の給付に係る費用として計上しております。前年度比較で480万7,000円の減額となっておりますが、今年度末、退職者医療制度の経過措置期間の廃止に伴う月遅れ請求や過誤調整に係る費用を計上しております。

続きまして、次ページの124ページのほう、お願いします。

目3一般被保険者療養費、同じく一般被保険者療養費負担金で1,696万5,000円で、一般被保険者の療養に係る費用として計上いたしております。こちらのほうは前年度と大きく変わりございません。

目4退職被保険者等療養費で、こちらのほうは5万円でございます。退職被保険者の療養に係る費用として、こちらのほうも退職医療制度の経過措置期間の廃止に伴う月遅れの請求や過誤調整に係る費用を計上しており

ます。

目5、中事業名とも審査支払手数料でございます。590万円で、レセプト等の審査支払いに係る経費を計上しています。前年度とこちらのほうは大きく変わりございません。

予算書のほう、249ページのほうをご覧ください。

続きまして、項2の高額療養費でございます。

一般被保険者と退職者被保険者とを合わせまして、2億9,545万8,000円を計上しています。

予算の説明書のほうにお戻りください。

124ページでございます。

目1一般被保険者高額療養費で2億9,480万8,000円で、一般被保険者の高額療養費に係る費用を計上しております。前年度と比較しますと4,417万5,000円の増額となっております。

続きまして、次ページ、125ページのほうをお願いします。

目2退職被保険者高額療養費で、10万円を計上しております。退職被保険者の高額療養費に係る費用として、制度の経過措置期間の廃止に伴うこちらのほうも月遅れの請求や過誤調整に係る費用を計上しております。

以上、説明資料の123ページから125ページ、上段の保険給付費のほうは県負担金の保険給付費交付金にて全額交付されるものとなっております。

同ページの項4出産育児諸費、目1、中事業名とも出産育児一時金でございます。1,008万円を計上しております。前年度と比較しますと252万円減額しております。1件42万円で、対象者を24件想定しております。

項5葬祭諸費で275万円を計上しております。前年度と比較しますと25万円増額しています。1件5万円で、55件を想定しております。

予算書のほうをご覧ください。

249ページのほうです。

3款国民健康保険事業の納付金でございます。納金のほう7億9,132万円で、前年度と比較しますと7,645万円減額となっております。この納付金は国保財政県一元化に伴いまして、県に納める納付金でございます。県下全ての市町村から提供されたデータを基に、県のほうがこの納付金のほうを集計しまして、総医療費を推計してそこから国の交付金等を控除しまして、算出した金額を各市町の医療費の増減や被保険者数、年齢構成等を加味して配分するものとなっております。

また、2年度の県が算定に用いた三重県全体の保険給付の総額は、前年度よりも0.85%程度増えて見込んでおります。

今回、納付金が前年度より減額となっております。その要因としましては、一つは平成30年度の余剰金が出ております。この余剰金を納付算定時に算入しまして、まず算定して、それから2つ目は国から県への前期高齢者交付金が増額されておりますので、市町に対してはこれまで精算による償還の影響がなくなったことによるものでございます。

当初予算説明資料のほうにお戻りください。

125ページのほうです。



最終欄の一般被保険者医療給付分から次ページの126ページ、中段までの介護納付金までは、それぞれ一般被保険者医療給付分は5億2,091万5,000円、これは昨年度と比べますと8,095万7,000円減額になっております。

次の一般被保険者後期高齢者の支援金分は1億8,423万6,000円で、こちらのほうは去年と比べますと437万7,000円増額になっております。介護納付金分といたしましては、8,616万9,000円で、55万7,000円の増となっております。

続きまして、126ページの中段になります。

5款、項1とも保健事業費のほうになります。国民健康保険事業では、保健事業の充実を図ることは、歳入としましては国や県から財政支援が増額になることになります。歳出の面で考えますと、県の納付金の減額になる要因になることから、国民健康保険の財政運営上、保健事業を充実することは大きな影響を及ぼすものでございます。

目1、中事業とも保健衛生給付費で、1,527万円を計上しております。前年度比で47万5,000円の減額となっております。この要因といたしましては、脳ドックの定員を各病院で調整したことによるものでございます。令和2年度も人間ドックや脳ドックを実施しまして、疾病の早期発見、早期治療に寄与することで健康維持増進に取り組みます。変更点につきましては、2年度は伊勢病院の人間ドックと脳ドックの自己負担額を増額させていただいております。健診内容には大きな変化はないんですが、伊勢病院の単価の見直しがあったことから、1人当たり人間ドックの費用を増額させていただきました。そのため、前年度と比べまして、人間ドックのほうでは2,000円増額の個人負担では1万7,000円、脳ドックでは1,000円増額しまして1万5,000円の負担をお願いすることになっております。

続きまして、項2目1、中事業とも特定健康診査等事業費で、2,854万4,000円を計上しております。前年度比で119万5,000円の減額となっております。この要因は特定健康診査の受診の実績ベースを鑑み、減額したものでございます。令和2年度は特定健康診査の受診率向上のために、これまで同様の自己負担額の無料化と、それから勧奨通知に加えまして、国保連合会の実施しますコールセンター利用の委託費を新規で計上しています。

そのほかの予算ですが、予算書268ページから269ページの基金積立金や諸支出金予備費は、昨年度とほぼ同額で計上しております。

続きまして、歳入のほう、説明させていただきます。

予算書のほう、252ページ、253ページのほうをお願いします。

国民健康保険税につきましては、一般分を5億8,164万7,000円、退職分を2万5,000円、そちらのほうと合わせまして総額5億8,167万2,000円を計上しております。広域化支援計画の目標収納率の95.74%を基本に、28年、29年、30年の3か年の実績と今年度の決算見込みを合わせまして、税務課と協議の上、収納率についての算定をいたしております。

続きまして、国庫支出金です。208万7,000円でございます。

説明資料の123ページで説明させていただきましたオンライン資格確認に係るシステム経費に係る補助金でございます。

続きまして、県支出金につきましては、保険給付費等交付金で22億694万4,000円でございます。

そのうち、節1の普通交付金20億8,697万5,000円、こちらのほうは保険給付費に充てるための交付金でございます。

節2の特別交付金は1億1,996万9,000円で計上しまして、こちらは保険者努力支援や特定健診、その他の事業に充てるための交付金です。

説明欄のほうで、説明欄の2で特別調整交付金という欄があります。こちらのほうでは、市町村の標準システム導入の経費3,898万9,000円の交付金もこちらで含んでおりますのでご了承ください。

続きまして、254ページ、255ページの財産収入のほうは前年度とほぼ変わりございません。

続きまして、同ページの国保事業特別会計に対する一般会計の繰入金のほうでございます。

繰入金の金額は2億3,287万1,000円を計上しております。

説明欄のほうをご覧ください。

番号のほうを振っております。1から5までは法定内の繰入金で、合算しますと2億1,987万1,000円になっております。

6番のその他一般会計繰入金、こちらのほうは法定外の繰入金で1,300万円で、これは人間ドックや特定健診に係る事業に充当する分でございます。

続きまして、前年度繰越金は2,300万円を見込んでおります。

続きまして、諸収入や延滞金の600万円、254ページのほうの第三者雑入を合わせまして201万3,000円を計上しておりますが、こちらのほうは大きな変化はございません。

以上で国民健康保険事業の特別会計の説明を終りますので、ご審議よろしく願いいたします。

○浜口一利委員長 説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

(「1点だけ」の声あり)

○浜口一利委員長 山本委員。

○山本哲也委員 丁寧な説明ありがとうございます。

1点ちょっと質問したいんですけども、これ説明資料で書いていただいています当初予算の算出根拠のところ、令和1年度見込みの2月1日時点という数字が結構あちこちで書いて、上げていただいているんですけども、これ現時点で大きなずれとかというのは、この見込み、出てきていないかだけ教えてください。

○浜口一利委員長 寺田係長。

○寺田係長 市民課保険年金係の寺田です。よろしく申し上げます。

2月1日時点で見込ませていただいているのは、11月の診療分までとなっております。現時点では診療の支払い進んでいるんですけども、大きな増減はございませんので、このとおりで問題ないと思います。

○浜口一利委員長 よろしいですか。

○山本哲也委員 はい。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 126ページの特定健診の審査等の事業費についてお伺いをいたします。

この40歳から74歳の方の生活習慣病予防のための特定健診であります、対象の人数は何人いらっしゃるのでしょうか。

○浜口一利委員長 寺田係長。

○寺田係長 被保険者の見込みは4,379名を見込んでおります。

○坂倉広子委員 ありがとうございます。

今回、この受診勧奨コールセンターを設置していただいたということで、昨年のを見させていただきますと、いわゆる勧奨通知はしていただいていたんですけれども、初めてこのコール、リコールというか、女性特有のがん検診のほうではそちらのほうしていただいているんですけれども、今回初めての取組になりますか。

○浜口一利委員長 市民課長。

○山下市民課長 国保連合会が実施しています事業です。これの委託を受けまして、まず勧奨をしていただくという試みです。今までも職員が時間外というか、執務の合間に勧奨を促すために電話は個々にさせていただいています。ですが、受診率が向上できないこともありますので、こういう国保連合会の事業を使いましてより受診率を上げようということで、この委託をプラス加えようとして予算計上させていただきました。

○浜口一利委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 頑張ってくださいと思います。よろしくお願ひいたします。

○浜口一利委員長 南川委員。

○南川則之委員 126ページの保健衛生給付費のところ教えてください。

令和2年度、人間ドック、脳ドックを実施するというですけれども、先ほど課長の説明で伊勢病院の自己負担も増えたという中で、申請した人が、全ての人が現状としてこれで受けられるかどうかお聞きします。

○浜口一利委員長 上村課長補佐。

○上村課長補佐 保険年金係の上村です。

令和2年度のこの事業については3月1日号で周知しまして、先般、申込みを締切りさせていただきました。人間ドックに関しましては、残念ながら定数まで現在届かなかったということで、この先少し検討したい。そして、脳ドックについては定員をオーバーしておりますので、ここは抽選、そして外れた方にはキャンセル待ちをというような予定をさせていただきたいと考えております。

以上です。

○浜口一利委員長 よろしいですか。

○南川則之委員 はい。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

戸上委員。

○戸上 健委員 5点お伺いします。

○浜口一利委員長 はい、どうぞ。

○戸上 健委員 税務課長、来ていらっしゃいますもので、国保世帯の平均所得額、これは幾らになっておりますでしょうか。

○浜口一利委員長 税務課長。

○勢力税務課長 見込みでございますが、137万4,158円で見込んでおります。

以上です。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 2点目、お聞きします。

その所得からモデルケースというのがあるというふうに思います。夫婦2人で小・中学校の子供2人の場合ですけれども、所得金額200万円、たしかそれぐらいだったというふうに思うんですけれども、それで保険税額、幾らになるでしょうか。

○浜口一利委員長 税務課長。

○勢力税務課長 今から算定しますんで、ちょっと違う質問、先にさせていただいていいですか。

○戸上 健委員 はい、分かりました。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 委員長、よろしいか。

○浜口一利委員長 はい、どうぞ。

○戸上 健委員 鳥羽市の令和元年度の保険税額についてお聞きします。

1人当たりの保険料保険税額、調定額、これは三重県下14市のうち何番目に位置しておりますでしょうか。

○浜口一利委員長 税務課長。

○勢力税務課長 1人当たりの調定額ということですよ。

○戸上 健委員 はい、1人当たりの保険料保険税額、調定額。

○勢力税務課長 他の市町の1人当たりの調定額、ちょっと確認しておりませんので、何番目というのはちょっと分からないです。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 私の手元にあるのは、鳥羽市の場合11万23円で、一番高いのは鈴鹿市の11万4,293円、2番目に14市の場合高いということです。また、間違っておれば訂正してください。

○浜口一利委員長 税務課長。

○勢力税務課長 すみません。戸上委員と算定の仕方が違うのか、こちらで鳥羽の1人当たりの調定額は9万799円というふうに算定しております。ごめんなさい、鈴鹿市さんもそれと同じぐらいになるか分かりませんが、鳥羽の1人当たりの調定額は9万799円と見込んでおります。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 これは県の資料ですもので、確かだというふうに思います。

そこでお聞きしますけれども、鳥羽市の1人当たりの医療費、これは何番目になっておりますでしょうか。

○浜口一利委員長 市民課長。

○山下市民課長 25位と。

○戸上 健委員 25位。

○山下市民課長 はい。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 29市町のうち25位ということです。36万7,843円。

最後にお聞きしますが、新年度予算では現年課税分の納付率を95.4%と弾いております。収納率は、平成30年度は95.88%という数字が出ております。県の数字。これは何番目に高い数字でしょうか。

○浜口一利委員長 市民課長。

○山下市民課長 県下で8位になっております。

○戸上 健委員 8位です。

○浜口一利委員長 どちら。

○山下市民課長 市町で8位で、市では1位です。

○戸上 健委員 1位ですよ。僕が言いたいのは、収納率が県下1位、14市のうち納付率が高いんです。それだけ鳥羽市民は真面目に納税しておるといことなんです。その上、1人当たりの医療費、これは25位でも下位のほうなんです。ということは……

○浜口一利委員長 それだけ使わんということか。

○戸上 健委員 保険税はきっちり払っておるのに、かかる医療費は少なくて済んでおるといことなんです。それなのに、私の疑問は何で保険税が県内2番目に高いのかと。市民の素朴な疑問ですので、これちょっと説明してください。

○浜口一利委員長 分析できます。

戸上委員、後で。

○戸上 健委員 決算でまたお聞きします。結構です。

○浜口一利委員長 税務課長。

○勢力税務課長 すみません、先ほどのモデルケースの算定ですけれども、介護納付金分はちょっと除きましたけれども、40歳以下ということで。

○戸上 健委員 はい。

○勢力税務課長 33万7,200円になります。

あと、すみません。もしかすると軽減世帯とか、そういうものも出てくるかも分かりませんが、軽減なく計算したときに33万7,200円になります。

以上です。

○戸上 健委員 分かりました。

○浜口一利委員長 よろしいですか。

○戸上 健委員 結構です。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○浜口一利委員長 それでは、質疑もないようですので、続いて議案第72号、令和2年度鳥羽市後期高齢者医療特別会計予算について、担当課長の説明を求めます。

市民課長。

○山下市民課長 後期高齢者医療特別会計のほうを説明させていただきます。

議案第72号、令和2年度鳥羽市後期高齢者医療特別会計予算の説明をさせていただきます。

予算書のほうは341ページをご覧ください。

歳入歳出の総額は、歳入歳出それぞれ5億3,480万円とするものでございます。前年度より2,621万円の増額で計上させていただきました。後期高齢者医療特別会計については、県下各市町が加入します三重県後期高齢者医療広域連合が担いまして、制度に基づいた運営を行っています。そのため、例年、広域連合からの通知によりまして予算編成を行っています。

歳出のほうの説明をさせていただきます。

予算書のほうで348ページ、349ページ、お願いします。

1款総務費、1項総務管理費、1目、説明欄とも一般管理費で、1,855万5,000円でございます。医療制度における諸申請の受付事務に係る事務的経費や高齢者の保健事業、そして職員の人件費のほうを計上しております。

続きまして、2項1目、説明欄とも徴収費でございます。65万8,000円で、保険料徴収に係る市が行う事務経費で、こちらのほうは前年度と大きく変わりございません。

予算の説明資料のほう、133ページをご覧ください。

予算書は一番下段のほうになります。

後期高齢者医療広域連合の運営に係ります共通経費、医療給付に要する経費、保険料に係る納付金として、5億1,448万7,000円を計上させていただきました。前年度と比較しますと2,561万2,000円の増額になります。この増額の主な要因は、療養給付費と保険料の増加によるものでございます。納付金の算定における高齢者人口は3,725人で、前年度は3,709人でしたので、16人の増となっております。この主な財源ですが、一般会計からの繰入金3億2,874万3,000円を充てることとなります。

続きまして、歳入のほうを説明させていただきます。

予算書の346と347をお願いします。

後期高齢者医療保険料で1億8,574万4,000円を計上いたしております。特別徴収保険料は1億2,201万円、普通徴収保険料は6,373万4,000円で、滞納繰越分が60万円でございます。

続きまして、2款繰入金をお願いします。

一般会計からの繰入れとして3億4,720万3,000円を計上いたしております。

説明欄のほうをご覧ください。

事務費の繰入金としまして2,911万2,000円、保険基盤安定繰入金は7,384万5,000円、療養給付費等繰入金で2億4,424万6,000円を計上しております。

続きまして、3款諸収入をお願いします。

保険料の還付金及び還付加算金に係る費用と高齢者医療制度特別対策補助金と合わせまして、1億5万3,000円を計上いたしました。

以上で後期高齢者医療特別会計の説明を終了しますので、ご審議のほどよろしく願いいたします。

○浜口一利委員長 説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

(「なし」の声あり)

○浜口一利委員長 よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○浜口一利委員長 それでは、質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩します。

10分間休憩いたします。

(午前 9時55分 休憩)

---

(午前10時02分 再開)

○浜口一利委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

議案第70号、令和2年度鳥羽市定期航路事業特別会計予算について、担当課長の説明を求めます。

定期船課長。

○世古定期船課長 改めまして、おはようございます。

定期船課、世古です。よろしくお願いいたします。

まず、予算編成の苦心した点も含めまして、説明のほうをさせていただきたいと思います。

定期航路事業につきましては、離島住民の皆さんの生活を支える必要不可欠な航路として、また、観光等で離島を訪れる方々にとっても重要な交通手段として、重要な役割を担っております。しかし、定期航路事業の収支状況は、運航収入だけでは賄い切れない財源を国・県の補助金及び一般会計繰入金を充当して、定期航路の運営を行っているところです。今後も少子高齢化をはじめ人口減少等の影響により厳しい運営状況が続くことが予想されるため、さらなる経営改善が求められております。このような状況を踏まえ、令和2年度予算編成に当たりましては、限られた財源の下、本航路の維持及び運航に必要な経費を計上しております。

特に苦心した点につきましては、いかに歳出を抑制、縮小できるかでした。この課題解決に向けまして課内で協議を重ね、悩んだ末に課として出した苦肉の案が、高速船3隻が加入しています船舶保険、自動車ですと車両保険と同じような保険になりますけれども、船体でありますとかエンジン、荷物等の損害があったときに補償が出るという保険を、この保険に加入することを見送ることにしました。見送ることによりまして、966万5,000円の削減につながります。

加入を見送った理由につきましては、大きく二つございます。一つ目は、乗客のけがや荷物の損傷等を補償対象としております船客傷害賠償責任保険につきましては、引き続き全線で加入していること、二つ目は、人件費をはじめ燃料費、修繕料等、他の経費で削減することが困難であったこと、また、これ協議していく上で、加入後支払った保険12年分の総額と、そういう補償でいただいた保険料——5件分なんですけれども——との比較でしますと、支払った保険料がおよそ6,400万円、支払いを受けた保険料が2,500万円、差引き3,900万円、これを12年で割りますと、1年間約320万円ぐらいが掛け捨てというような形になると。そして、1年間の保険料約960万円と1年で最も多く損害があつて支払われた保険金額が1,180万円、この差額が約220万円、こういったことも考慮しながら決定いたしました。

万が一、事故が発生した場合に生じる修繕料につきましては、予算措置を講じ対応することといたしました。

今後一層の安全運航に努めてまいりたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

それでは、定期航路事業特別会計の当初予算につきまして説明させていただきます。

予算書は297ページをご覧ください。

議案第70号、令和2年度鳥羽市定期航路事業特別会計につきましては、歳入歳出ともに6億440万円としております。また、一時借入金の借入れの最高額は3,000万円と定めております。

それでは、当初予算の内容につきまして、歳入から説明させていただきます。

予算書は302ページ、303ページをご覧ください。

1款航路収益、1項営業収益、目1運航収益につきましては、3億1,504万8,000円を計上しております。運航収入の旅客収入につきましては、令和元年度の収入実績をベースに前年度と前々年度における月別収入額の増減率を乗じて算出した額や過去5年間の平均収入額を参考にするとともに、消費税率改定に伴う増収分を合わせた2億7,919万2,000円を計上しました。荷物収入につきましては、ここ近年取扱い個数がほぼ横ばいで推移をしておりますことから、前年度とほぼ同額の3,585万6,000円を計上しております。

目2諸収入につきましては、197万4,000円を計上しております。

説明欄4、自動販売機設置手数料につきましては、各棧橋に設置しています自動販売機8台分の設置手数料になります。このうち3台につきましては令和2年度に契約更新予定であるため、前年度と同額で計上をさせていただきます。

説明欄5、地球温暖化対策税還付金46万3,000円につきましては、これまで補正予算時に計上しております。今年度は3月補正で計上させていただく予定です。今年度から当初予算で計上させていただきます。

次に、2款国庫支出金、1項国庫補助金、目1定期航路事業費国庫補助金につきましては、1億2,439万5,000円を計上しております。

説明欄1、地域公共交通確保維持改善事業費補助金では、国の航路損益計算見込みにおきまして標準見込み欠損額、いわゆる赤字額が減少するため、内定額が前年度より3,497万3,000円減額となっております。

次に、3款県支出金、1項県補助金、目1定期航路事業費県補助金につきましては、3,398万2,000円を計上しております。

説明欄1、離島航路整備事業補助金につきましては、国庫補助金の減額に伴い県補助金対象額が増額いたしますことから、前年度より1,144万4,000円増額となっております。

4款財産収入、1項財産運用収入、目1利子及び配当金につきましては、減債基金預金利子といたしまして、前年度と同様に1,000円を計上しております。

5款繰入金、1項一般会計繰入金、目1一般会計繰入金につきましては、1億2,900万円を計上しております。定期航路事業の歳出抑制に伴い、前年度に比べ1,810万9,000円の減額となっております。

続きまして、歳出の説明をさせていただきます。

予算書は304ページから311ページ、予算説明資料は129ページから130ページをご覧ください。

1款定期航路事業費、1項営業費用、目1船員費につきましては、定期船運航のための船員費に係る人件費



等でございます。船員一般管理費としまして2億4,570万3,000円を計上しております。主な経費は船員28名の人件費2億2,291万7,000円、会計年度任用職員6名の人件費2,120万2,000円等です。

次に、目2船舶費につきましては、定期船の運航に要する船舶の燃料費をはじめ、維持管理に係る経費でございます。船舶運航経費としまして1億8,890万6,000円を計上しております。主な経費は燃料費9,805万8,000円、法定検査等に係る修繕料8,580万円のほか、備品購入としまして船舶のGPS、あと救命胴衣等の購入費の110万円等になります。

また、冒頭で申し上げましたとおり、船舶保険料の加入を見送ったことで966万5,000円を減額しております。

次に、目3旅客荷物費につきましては、マリントーミナルをはじめとする棧橋業務に係る経費でございます。旅客荷物経費といたしまして5,675万円を計上しております。主な経費はマリントーミナルの窓口業務をはじめ、荷物及び棧橋業務に従事する会計年度任用職員11名の人件費3,712万3,000円、離島棧橋業務委託料1,489万2,000円等のほか、10月議会におきまして債務負担行為をお認めいただきました旅行関係のパンフレット掲載等に係る手数料29万6,000円を計上しております。

なお、会計年度任用職員につきましては、マリントーミナルにおける荷物及び棧橋業務の負担軽減を図るため、1名増員をしております。

次に、目4航路付属費につきましては、各棧橋や待合所等の施設の維持管理に係る経費でございます。航路付属経費としまして492万円を計上しております。主な経費は各棧橋、待合所の光熱水費210万円と修繕料55万円等になります。

予算説明資料130ページをお願いします。

次に、目5一般管理経費でございます。一般管理経費につきましては、定期航路事業を管理運営するための人件費や事務費等でございます。定期航路運営一般管理経費といたしまして、6,924万1,000円を計上しております。主な経費は、定期航路事業運営に係る職員5名の人件費4,042万1,000円、会計年度任用職員1名の人件費252万3,000円及び公課費、消費税になりますが、1,890万円等です。

続きまして、2款公債費、1項公債費です。

目1元金につきましては、交通事業債償還元金として3,863万8,000円、目2利子につきましては、交通事業債償還利子としまして19万9,000円を計上しております。内容につきましては、ともにしおさい建造に係る起債の元金及び利子でありまして、大きな変動はございません。

同じく目2利子の一時借入金利子につきましては、一時借入金の利子としまして4万3,000円を計上しております。

以上、定期航路事業特別会計の説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

○浜口一利委員長 説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

河村委員。

○河村 孝委員 この財政きつい中で、先ほど保険料の話、課長から説明ありました。966万5,000円の

保険料の削減というところ、額面どおりには受け取れないにしても、先ほど分析の中で300万円ちょっとで5年平均に済んでいるというところを分析して、そこを突き止めて何とかここを削れるだろうかじを切ってもらったというところは、私はよく分析してもらったなというふうに評価したいと思います。

どうでしょうか、戸上さん。

○戸上 健委員 同感です。

○浜口一利委員長 どうぞ、山本委員。

○山本哲也委員 その自動車保険やったら車両保険のところを切られたというところやと思うんですけども、これ過去の事故があった場合の最大の支払いが1,000万円ちょっとの支払いやったというところでは聞いておるんですけども、想定されるところでもっと上はあるわけじゃないですか。そういう事故とかアクシデントもあるんでしょうけれども、なかなか防ぎようのないアクシデントとかって起こってきた場合に、保険料が適用できずに予算立てしてというところになってくるかと思うんですけども、過去最大が1,000万円ちょっとというところで、想定されるというとなんか、エンジンですとかその辺で大丈夫なんかというところはあるかもしれないんですけども。

○浜口一利委員長 定期船課長。

○世古定期船課長 ありがとうございます。

この保険料、加入しているのが本当が一番いいとは思うんですけども、課の中で説明させてもらいました、家庭でいくと家計簿の目線で、どういったところが削減できるかということで協議した結果になります。山本委員のどれぐらいのものやということなんですけれども、今までのいただいた保険のうちの一番高かったのが1,100万円という、約1,200万円ぐらいになるんですけども、それが海洋浮遊物というんですか、それがシャフト、それからエンジンまで行ったというのが、これが約1,200万円、これが一番大きい今までの損害額で賠償でいただいた金額になります。

○浜口一利委員長 山本委員。

○山本哲也委員 ということは、普段の安全運転していただいております中で想定できる事故というところ、そういったところの巻き込みとかでやってしまうというのが最大の想定できる、想定できるといったらいろんなことを想定せなあかんかもしれないんですけども、現実であり得るところでいうとその辺のかなというところで、我々は認識しておいたらいいいんですよね。

○浜口一利委員長 定期船課長。

○世古定期船課長 その想定でいいかなと。私たちもそういうふうに思っております。

○河村 孝委員 いいですか。

○浜口一利委員長 はい、どうぞ。

○河村 孝委員 日頃から心がけてはいただいておりますかとは思いますが、切ってしまったというところで安心の部分の切れてしまうところなので、くれぐれもそういった事故のないような運航をさらに心がけていただきますようお願いいたします。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 関連してなんですけれども、今、新型コロナがはやっております。それで予算の見込みの中で減収が見込まれるのではないかなというふうに思われるんですけれども、観光客の影響とかというのはどういうふうに考えていますでしょうか。

○浜口一利委員長 定期船課長。

○世古定期船課長 予算計上するときは、まだコロナウイルスの影響がないということで予算計上させていただいています。決算のときにもお話をさせてもらった経緯があると思うんですが、定期船を利用していただいている方は離島住民の方が約8割から9割を占めているというようなことも説明をさせていただきました。そういったことから考えますと、残りの1割から2割が観光客の皆さんになるんですけれども、その部分、確かにこの土曜日とか日曜日の状況を見ていますと、少し少ないというような状況というのは聞いております。ただ、幸いという言葉は適切かどうか分かりませんが、離島住民の方に8割か9割使っていただいているということは、その影響が最小限にとどまっているのかなというふうに今考えています。

○浜口一利委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

私も使っていてその辺のところ、心配される場所でもあります。ただ、おっしゃったように、観光客よりも地元の住民の大切な足という認識があって、その利用客が多い中、今、苦肉の策で保険のところを削除していただいたということは非常に評価したいなというふうに思います。ありがとうございます。

○浜口一利委員長 よろしいですか。

他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○浜口一利委員長 えらい優しいな。

(「委員長、1点だけ」の声あり)

○浜口一利委員長 世古委員。

○世古安秀委員 今回、新年度、いきいきお出かけ券がもう廃止されるんですけれども、その離島住民の方々が一番やっぱり利用される人が多いわけなんですけれども、その辺の影響というのはどういうふうに考えられていますかね。

○浜口一利委員長 定期船課長。

○世古定期船課長 いきいきお出かけ券の対象者というのも、高齢者の方になると思うんです。ですので、影響というのはそんなに大きくはないのかなというふうには今のところ考えています。

○世古安秀委員 以上です。よろしいです。

○浜口一利委員長 それでは、質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩いたします。

(午前10時24分 休憩)

(午前10時29分 再開)

○浜口一利委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、議案第71号、令和2年度鳥羽市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について、担当課長の

説明を求めます。

水道課長。

○浜口水道課長 水道課、浜口です。よろしくお願いいたします。

それでは、議案第71号、令和2年度鳥羽市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算の説明をさせていただきます。

まず初めに、予算編成に当たり苦心、工夫した点でございますが、数年前よりストックマネジメント計画、施設の長寿命化計画ですが、これを職員の自前で作成し、国へ補助申請を行い、市単で行っていた工事を令和2年度より交付金を活用して維持修繕を行うよう予算計上し、市費による工事費を抑えたところが工夫したところでございます。

それでは、予算説明に入らせていただきます。

予算書は320ページ、予算説明資料は131ページをお願いいたします。

本事業の歳入歳出予算額は1億6,200万円となり、前年度比1,640万円の増額となりました。

では、歳入からご説明させていただきます。

予算書は326ページをお願いいたします。

1款分担金及び負担金、1項分担金、目1下水道分担金は、前年度より10万5,000円減の10万5,000円を計上しております。

2款使用料及び手数料、1項使用料、目1下水道使用料については4,732万円、前年度比99万9,000円減で予算を計上しております。下水道使用料現年分は前年度比71万5,000円減の4,591万2,000円、下水道使用料過年度分は前年比28万4,000円減の104万7,000円を計上しております。これは、現年分について人口減少による下水道使用料の減少を見込んだものでございます。

3款国庫支出金、1項国庫補助金、目1業務費補助金は931万9,000円を計上し、昨年度と比べ皆増となっております。これは先ほどお伝えさせていただきましたストックマネジメント事業、略称ストマネ事業といいますが、その長寿命化工事に対する国からの補助金を計上しております。後ほど歳出にて説明させていただきます。

4款繰入金、1項一般会計繰入金、目1一般会計繰入金は9,700万円を計上しております。これは昨年度と同額でございます。

続きまして、予算書328ページをお願いいたします。

6款市債、1項市債、目1下水道事業債は820万円を計上し、昨年度と比べ皆増となっております。これについては、ストマネ事業の工事請負費から補助金を除いた金額については、起債にて事業を行うため計上しております。

続きまして、歳出についてご説明させていただきます。

予算書は330ページ、予算説明資料は131ページをお願いいたします。

1款事業費、1項業務費、目2施設管理費は7,018万8,000円で、昨年度と比べ1,672万4,000円の増でございます。これは予算説明資料にあるとおり、相差浄化センターなど四つのストマネ事業を行う予定をしています。具体的には、相差中継ポンプ場インバータ更新では、相差中継ポンプ場から相差

浄化センターに汚水の圧送する量を抑制する機械の更新工事を行う予定です。相差浄化センターPAC注入コントローラー更新では、相差浄化センターで汚泥の中に含まれるリンを除去する薬剤の注入量を制御する機械の更新工事を行う予定です。相差浄化センター汚泥脱水機薬品注入コントローラー更新では、汚泥の脱水を促進するための薬剤の注入量を抑制する機械の更新を行う予定でございます。畔蝸L1マンホール2号更新では、汚水の圧送を行うマンホールポンプの更新工事を行う予定でございます。この四つの工事で1,759万円を計上しております。あとにつきましては、昨年度とほぼ同様でございます。

332ページの2款公債費、1項公債費、目1元金6,766万7,000円及び目2利子1,087万2,000円などの合計7,853万9,000円で、昨年度と同額となっております。

以上、令和2年度鳥羽市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

○浜口一利委員長 説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 1件だけお聞きします。

説明書の131ページの施設管理費というところで、先ほど課長の説明で鳥羽市ストックマネジメント計画というのを作成したということで、コンサルを発注せずに自前でやったというところ、それを国に認めてもらったというところ、本当に評価したいと思います。それで、中身を少しお聞きします。

今年度1,759万円ということで、今後、長寿命化計画をやっていくということなんですけれども、毎年、今年以降どのような頻度というか予算で、何年ぐらいかけてやるか教えてください。

○浜口一利委員長 清水係長。

○清水係長 下水道課の清水です。よろしくお願いいたします。

この計画は5年計画となっております、今のところ5年間の計画で、大体これぐらいの額で毎年更新工事を行っていく予定をしております。それ以降は、またそのときに見直しをさせていただく予定をしております。

○浜口一利委員長 南川委員。

○南川則之委員 5年ぐらいかけてやるということなんですけれども、供用開始から22年たっておるということで、ほとんどの機器が耐用年数を過ぎておるかなと思いますけれども、このストックマネジメント計画にのっとって少しでも施設を延命して、22年ということは30年ぐらいたってくると本当に施設を更新していかないかんという時期に入ってくるのかなと思いますけれども、その時期を少しでも延ばせるような形で長寿命化を図っていただきたいなと思います。

以上です。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

戸上委員。

○戸上 健委員 3点お聞きします。

○浜口一利委員長 はい、どうぞ。

○戸上 健委員 使用料について、まずお聞きします。

過年度分3,128万8,000円の滞納に対して4.5%徴収という目標ですけれども、このレベルはなぜこういう数字になったか説明してください。

○浜口一利委員長 水道課長。

○浜口水道課長 令和2年度4.5%を計上させていただきました。この数字につきまして決算のほうでも指摘を受けまして、以前が3%、決算では約3%くらいで、現状に見合った率を用いるべきじゃないかというご指摘をいただいたところです。前年度5%でございましたけれども、あまりにも3%まで下げると意欲の問題も出てきますので、職員を鼓舞するためにももう5%から少し減らした4.5%ということで計上させていただきました。

以上です。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 分かりました。

次に、繰入金9,700万円ですけれども、これは基準内と基準外はそれぞれどれだけでしょうか。

○浜口一利委員長 清水係長。

○清水係長 お答えさせていただきます。

基準内が7,882万2,000円、基準外が1,817万8,000円でございます。

以上です。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 基準外が1,817万円とおっしゃいましたか。

次に、333ページの公債費についてお尋ねします。

起債残高、2年度末で幾ら残るのでしょうか。

○浜口一利委員長 清水係長。

○清水係長 お答えさせていただきます。

2年度末で2億6,166万4,000円を予定しております。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 最終、完了するのはいつなのでしょう。

○浜口一利委員長 清水係長。

○清水係長 今回820万円を借りることもありますので、今のところ最終年度は令和18年度末と予定しております。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 もう聞くのも酷なんやけれども、あえて聞きました。頑張ってくださいと思います。

以上です。

○浜口一利委員長 河村委員。

○河村 孝委員 関連で聞けばよかったですけれども、使用料のところなんですけれども、課長の説明では人口減分を見込んでいるということでありました。今年度の予算のところでも116万5,000円使用料減を見込んでいて、来年度予算についても約100万円の使用料の減を見込んでいると。単純に人口減というより

も、実際の今年度の実績みたいなベースのところからそういう数字を出しているのか、もう本当に年間100万円ずつ人口減のところでは純粋にそういう使用料の減を見込んでいるのか、もう少し詳しく説明していただけますか。

○浜口一利委員長 清水係長。

○清水係長 この使用料は、両方一応勘案しながら見込みを出ささせていただいております。

○浜口一利委員長 河村委員。

○河村 孝委員 じゃ、人口減に対しては何%ぐらいを見ているんですか。

○浜口一利委員長 清水係長。

○清水係長 大体およそ1.5%ぐらいを見込んでおります。

○河村 孝委員 1.5%。

○清水係長 はい。

○河村 孝委員 はい、分かりました。

以上です。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○浜口一利委員長 よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○浜口一利委員長 それでは、質疑もないようですので、続いて企業会計への審査に入ります。

議案第73号、令和2年度鳥羽市水道事業会計予算について、担当課長の説明を求めます。

水道課長。

○浜口水道課長 まず初めに、予算編成の考え方を申し上げます。

まず初めに、安心・安全な水道水の供給サービスと持続可能な財政運営に留意し、編成いたしました。第4条、予算資本的収入及び支出では、布設後40年を経過し、老朽化が著しい答志島から神島間の海底送水管の布設替えの工事費を計上しております。ご承知のとおり、海底送水管の布設替えには莫大な費用が必要となりますことから、幾度か関係省庁にも出向き、市の実情などを訴えるなど、補助金の確保に努力してきたところでございます。

また、平成30年度より、離島地区において地震発生後職員が離島へ行けなくなっても避難所で水が確保できるよう、水道タンクから避難所までの間を耐震管に変える工事を本土から遠い神島から順次行っております。今年度より答志島の布設替えを行っており、本予算にも計上させていただいております。完成後は菅島、坂手島と順次整備していきます。

このように、今後も基幹管路の耐震化や施設の老朽化に伴う改良工事が控えていることから、サービスの低下につながらないよう財政計画に合った事業運営を心がけていきたいと考えております。

それでは、議案第73号、令和2年度鳥羽市水道事業会計予算の説明に入らせていただきます。

予算書及び予算説明資料の1ページをお願いいたします。

予算書1ページの第2条、業務の予定量といたしましては、給水件数を9,200件、年間総配水量を前年

度比8万3,000立米減の415万立米としております。また、主要な建設改良事業としましては、後ほどご説明させていただきますが、前年度と比べ1億1,935万5,000円増の8億9,814万6,000円としております。

第3条、収益的収入及び支出につきましては、収入は前年度比5万2,000円増の13億811万円、支出では前年度比1,606万3,000円増の11億5,527万円を予定額としております。

予算書2ページ、説明資料は3ページをお願いします。

第4条、資本的収入及び支出ですが、収入で前年度より1億617万8,000円増の5億4,960万円、支出では前年度より1億2,930万2,000円増の10億2,840万円を予定額とし、資本的収支の差引き不足額4億7,880万円につきましては、当年度分消費税及び地方消費税、資本的収支調整額、過年度損益勘定留保資金及び減債積立金、建設改良積立金で補填することとしております。

第5条、企業債であります。上水道建設改良事業に充てる財源として2億円を限度額とするほか、起債の方法などを定めております。

それぞれの予算の詳細につきましては、予算書19ページからの水道事業会計予算実施計画明細書で説明させていただきます。

まず、19ページの収益的収入及び支出でございます。

収益的収入の款1水道事業収益、項1営業収益、目1給水収益では、令和元年度の決算見込みを踏まえ11億6,291万4,000円を計上し、前年度と比較すると1,033万1,000円の増額となっております。これは消費税率の変更に伴うものでございます。

項2営業外収益におきましては、目2他会計補助金として高料金対策補助金及び職員の児童手当並びに旧簡易水道の企業債利息償還補助金を合わせた1,568万2,000円を計上し、予算書20ページの目5消費税及び地方消費税還付金では104万4,000円を計上しております。

続きまして、予算書21ページをお願いいたします。

また、予算説明資料では4ページからとなりますのでよろしくをお願いいたします。

収益的支出となります。

款1水道事業費用、項1営業費用、目1原水及び浄水費ですが、4億6,821万4,000円を計上いたしました。主なものといたしましては、岩倉水源地管理棟屋上防水工事1,119万3,000円などを含んだ修繕費1,369万3,000円のほか、岩倉水源地等管理業務などの委託料7,255万8,000円や南勢水道用水受水費3億3,256万1,000円となっております。

次に、同ページの目2配水及び給水費では、1億1,379万5,000円を計上しております。主なものとしましては、浄水器の取替え工事など安定した水の供給確保を目的とした修繕費で、前年度比1,483万7,000円減額の4,035万3,000円を計上するほか、委託料で水道管路及び水道施設の一元管理を目的とした水道施設管理システムの保守点検費用などを含んだ1,780万7,000円を計上しております。

23ページの目4業務費では、水道料金等徴収業務委託料や水道料金の収納に係る費用などを合わせた6,242万4,000円を、目5総係費では、人件費のほか各種引当金への繰入金など5,384万5,000円を計上しております。



25ページから26ページに記載しております目6神島水道費、目7答志島水道費、目8菅島水道費では、旧簡易水道に係る維持修繕費などを計上し、目9減価償却費では3億2,706万1,000円を計上しております。

そのほか、項2営業外費用で企業債利息などを含む3,571万1,000円、項3特別損失で過年度給水収益返還金を含む200万円を、項4予備費として500万円を計上しております。

続きまして、28ページから30ページとなります。

収益的収入及び支出でございます。

説明資料は5ページ、下段からとなります。

款1資本的収入では項1企業債、目1企業債で、建設改良費の工事請負費の工事に対して財源となる2億円を計上し、項2分担金、目1分担金では、給水申込みに伴う収入150万円、項3負担金で消火栓新設改良工事に伴う他会計負担金を含んだ1,042万4,000円を計上するほか、項4県補助金では県道答志桃取線配水管改良工事費に対する交付金3,075万円を、項5国庫補助金では答志島神島間海底送水管布設工事費に対するものとして2億8,000万円を計上しております。

また、項6他会計補助金では、統合前の簡易水道企業債元金償還に対する総務省からの補助金2,692万6,000円を計上いたしました。

次に、29ページをお願いいたします。

款1資本的支出では、項1建設改良費、目1配水及び給水施設費で8億8,908万円を計上し、そのうち工事請負費で8億4,597万6,000円を占めております。内容といたしましては、8件の施設及び配水管改良工事のほか、3件の消火栓に係る工事などとなっておりますが、このうち令和2年度の最重点整備としましては、答志島神島間海底送水管布設工事の完成であり、安心・安全な水の安定供給に努めていきたいと考えております。事業規模の大きなものとしましては、答志島神島海底送水管布設工事に5億6,000万円や、配水管を改良し耐震化を図り、避難所までのルートを整備し、飲料水を確保するための工事、県道答志桃取線配水管布設工事に1億2,141万6,000円のほか、相差国崎間に新たに配水管を新設することによりルーブ化を図り、有事の際にも安定給水を図る県道阿児磯部鳥羽線連絡配水管布設工事に7,773万2,000円を計上しております。

そのほか、予算書30ページになりますが、款1資本的支出の主なものといたしましては、項2企業債償還金、目1企業債償還金で1億3,024万5,000円を計上しております。

最後になりますが、地方公営企業法及び施行令等で規定されている財務書類として、令和2年度水道事業会計への営業、投資及び財務活動の流れを示したキャッシュ・フロー計算書を予算書8ページに、財務状態を示す予定貸借対照表、経営成績を示す予定損益計算書を14ページから18ページに掲載させていただいておりますので、ご覧おきをお願いいたします。

以上で、令和2年度鳥羽市水道事業会計予算の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

○浜口一利委員長 水道課長の説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 何点かさせてもらいます。

まず、予算書のほうで17ページをお願いします。

それと、8ページ、先ほど課長が言われたキャッシュ・フローの予算書なんですけれども、去年の決算のときにも言わせてもらったんですけれども、17ページで現金の残高ということで、22億1,844万円ということで預金を持ち過ぎておって、市民に水道料金で還元でけへんかという話をさせてもらったときに、課長は資本的な部分で先ほど説明いただいた基幹管路の耐震化を進めたいという流れで、現状、17ページの貸借対照表で見ると30年度のさらに現金の保有残高というのが増えておると思うんですけれども、その辺で去年のときは5か年で耐震化を進めていくものでどんどん減って行って、5年先には10億円ぐらいになるという課長の説明があったと思うんですけれども、その辺の預金の残の考え方というのはどうなのか、まずお聞きします。

○浜口一利委員長 西根係長。

○西根係長 今ご質問がありました17ページにつきましては、令和元年度、今年度の預金の残高になっております。14ページをご覧いただくと、令和2年度予算を全て執行したということでの結果の現金預金の数値が出ております。そこでは少し下がったようになっておりますけれども、平成30年度の決算から上がるということにつきまして、このキャッシュ・フローと関連もご説明いたしますと、建設改良をすることによって減価償却が出てくるんですけれども、この減価償却というのは非現金支出でございますので、預金の中で動かない現金というものがあります。その減価償却が建設改良をするごとに増えていくということで、次の耐用年数後の40年後にその工事をまたするというためにプールされるお金なんですけれども、その部分についてが上っていく、どうしても上がっていくように見える原因なんですけれども、それでよろしいですか。

○浜口一利委員長 南川委員。

分かっとうやろう。

○南川則之委員 そういうことで、次、手法的なところでまた話を聞きますけれども。

もう一つ、続けていいですか。

○浜口一利委員長 はい。

○南川則之委員 21ページをお願いします。

21ページに県水の南勢水道の受水費ということで、3億3,256万1,000円ということで、これもまた去年の決算でいろいろ聞かせてもらった中で、2年度から新たな南水の受水を受けるために料金の改定に基づくいろいろ協議をして、金額を決めるということがあったと思うんですけれども、その辺どうなったか教えてください。

○浜口一利委員長 水道課長。

○浜口水道課長 決算のときもお話しさせていただきました。その後の経緯でございますが、南勢水道連絡協議会の中で11月に9市町の首長が企業庁長と直接協議を行いまして、料金改定の協議を行いました。その結果は料金据え置きということで、値下げには至らなかったということでございます。基本料金780円、使用料39円、超過料金として180円という、以前と同じ料金体系ということでございます。

なぜ料金値下げに至らなかったということにつきましては、企業庁のほうからいただいている答えとしましては、今後5年間の間に改良工事が控えておりまして、その改良工事に多額のお金が必要なので、そこで5年間見て料金を計算したところ据え置きということで、答えをいただいたところです。

以上です。

○浜口一利委員長 南川委員。

○南川則之委員 協議の上でそうなったということなんですけれども、鳥羽のほうも料金だけでなく使用量も減少しておるという中で、年間の責任水量というところも協議の対象になるかなと思いますので、その辺も含めて使用量に見合った水道の使用料というんか、それを下げてもらうような形の交渉もまたぜひしてほしいなと思いますので、よろしくお願いします。

続けていいですか。

○浜口一利委員長 はい。

○南川則之委員 それと、23ページをお願いいたします。

23ページの委託料の中で、市内の漏水調査という445万5,000円というのを見込んでいると思うんですけれども、これの中には市内の漏水調査ですので、市内というのは離島も入っているのかどうかまずお聞きします。

○浜口一利委員長 杉田課長補佐。

○杉田課長補佐 水道課の杉田です。よろしくお願いします。

今回の445万5,000円に関しましては、市内を4等分して順番に年次計画的に行っております。離島に関しましては急遽やるということで、急遽の分はまた新たに別の枠で組ませてもらっております。

以上です。

○浜口一利委員長 南川委員。

○南川則之委員 離島の分という話を聞かせてもらったのは、これもまた去年の決算でいろいろ聞いたんですけども、答志島の有収率がかなり悪いという中で、決算のときは74.5%という話で、漏水も多いということで、桃取か答志和具か答志かということで、答志島全体でどこが悪いのかなということで、漏水調査も必要やないかという話をさせてもらったと思うんですけれども、その辺でどの地区が影響しているかというのはつかんでおるか、まだ先ほど言われたように、今後そういう調査をしながらそういう漏水箇所を探すのか、その辺の考えをお聞きします。

○浜口一利委員長 杉田課長補佐。

○杉田課長補佐 お答えします。

漏水調査に関しましては、答志島が多くなっておりますのは海底送水管で漏れている量までちょっと含んでおりますので、答志島で漏れているような数字になっております。ですので、海底送水管を今年度直しまして、それでもう一度仕切り直して漏水量を確認するという形になると思います。

以上です。

○浜口一利委員長 南川委員。

○南川則之委員 というと、答志神島間の海底送水管の漏水量もかなりあるという解釈ということでよろしいで

すかね。その後、直った後の漏水調査というのもぜひしながらやっていただきたいなと思います。  
続けていいですか。

○浜口一利委員長 はい、関連がなかったら。  
どうぞ。

○南川則之委員 最後ですけれども、29ページお願いします。

課長の説明で工事請負費というところで何点か説明をいただいて、1番、答志神島間の海底送水管の布設替えというところで、この布設替えのところで少しお聞きしたいのは、今回工事が完成することなんですけれども、この工事の切替え工事するときに、島民、神島町なんですけれども、切替えのときに断水等を含めてあるのかないのかお聞きします。

○浜口一利委員長 高見係長。

○高見係長 切替えの段階におきます断水は考えておりません。  
以上です。

○浜口一利委員長 南川委員。

○南川則之委員 分かりました。断水しなくても切り替えられるということでもいいですね。  
もう一点お聞きします。

県道阿児磯部鳥羽線の連絡配水管布設工事ということで、先ほど課長の説明で相差国崎間が連絡管がつながるといふことなんですけれども、これで石鏡方面とか相差方面からのループ化が完成するという解釈でよろしいですか。

○浜口一利委員長 高見係長。

○高見係長 そのとおりでございます。  
以上です。

○浜口一利委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。  
以上です。

○浜口一利委員長 他にございませんか。  
戸上委員。

○戸上 健委員 1点お聞きします。  
予算書3ページの一借についてお聞きします。

限度額1億5,000万円になっております。一般会計でも113万円の利子、公債費というものになっておるんですけれども、これは企業会計特有の限度額なんでしょうか、教えてください。

○浜口一利委員長 西根係長。

○西根係長 特有ではございません。ちょっと根拠的なものは今すぐにはお出しできないんですけれども、通例1億5,000万円で計上しております。

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 分かりました。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○浜口一利委員長 海底送水管とか水道管工事、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○浜口一利委員長 それでは、質疑もないようですので、審査を終了します。

続いて、振り返りを行いますので、執行部の皆さんは退席を願います。

5分休憩します。

(午前11時08分 休憩)

(午前11時15分 再開)

○浜口一利委員長 今日までの4日間、本当に審査どうもご苦労さまでございました。

本日の審査が終わった時点で、まず今日の審査の過程の中での振り返りを行いたいと思います。

今日の中でどうしても取り上げたい部分というところをまず聞かせていただいて、その後4日間の通しての振り返りを行いたいと思いますので、まず今日の意見ということでお聞きしたいと思います。

今日の分についてはどうでしょうか。

河村委員。

○河村 孝委員 本編の中でも言わせてもらいましたけれども、定期船課、保険代を削るところで、それぞれの議員の思いがちっと違うところはあると思うんですけども、心配な部分ね。山本委員からも指摘があったような。ただ、私が評価したいのは、この財政難の中でそれを分析して、いや、もうそんなものはなかから無理やという思考の硬直に陥らないで、ありとあらゆるものを見直した中で、まずそれをやってみるという思考に至ったそのプロセスが評価に値するのではないのかなというふうに思うんです。5年平均を取ってその数字を出してきたんで、また5年やってみて結果、保険代のほうが安かったなということであれば、また次に考えたらいいわけで、分析した結果、一歩前へ踏み出したと、そういう思考に至ったというプロセスを評価したいなというふうに思います。

以上です。

○浜口一利委員長 ただいま河村委員のほうから今のような意見が出たわけなんですけれども、経営改善という部分がもう突き詰められている中で、そこまで踏み込んで新しい形というか、そこまで考え抜いたということについて評価したいというところなんですけれども、その点について各委員、異論はございませんか。

山本委員。

○山本哲也委員 異論ではないんです。よくよく考えて、よく考えた結果やとは思いますが、そうせざるを得なくしてしまったというところにおいては、もうちょっと考えるべきなところじゃないかなというふうに思うんです。

その辺の定期船課がそういった保険料まで切り詰めやなあかんような状況であるということは、考えてもらわないかところなん違うのかなと思いますし、それはもちろんほかの課の職員とか、ほかの予算を執行するに当たる部分においても、そういったところを切つてまでついておるお金がいっぱいあるわけで、その辺につ

いては各皆さん意識してもらわなあかんところなん違うかなと思いますし、こういうふう定期船課のそういう判断ができたというところは、日々そういったところで安全運航に努めていただいている職員さんとか、船長さんはじめとする船を預かっておる職員さんらの努力の賜物であったりとか、日頃のそういった心がけのおかげな部分はあるんで、その辺は評価しながら、単に、もちろん評価はさせてもらうんですけども、定期船課の評価というところだけに落ち着かせたらあかん問題なん違うかなというふうには僕は考えていますんで、本当にそれぐらい厳しい要求が上のほうからあったりとかしたところについても、問題意識は持っていかなあかんの違うかなというふうに思います。

○**浜口一利委員長** この件については、私も市営の定期船事業でそこまで考えねばならないのかなという部分については、ちょっとどうかというところはあるわけなんですけれども、他の委員、どうでしょうか。ほかの委員の皆さん方、どうでしょうか。

これ山本委員のほうと河村委員のほうから、どちらも本当にもっともな意見だと思うんで、そのあたりを二つ合体してというような形で意見まとめるしか方法ないと思うんやけれどもな、これはな。

○**瀬崎伸一委員** いわゆる我々が議会で議決をするということは、保険料を支払わない、要は保険の担保がないということの責任を何がしか持つと。我々も議会としての承認責任を持つんだということにもつながってくると思うんですけども、今回この保険料を切らなくてはいけない、いわゆるもう本当に緊縮財政の折からということをもうすごく象徴する案件かなと思うんです。昨日の審査でも出ました消防のほうでも、いわゆる備品購入費が200万円程度しか用意ができないというようなことももちろん財政が厳しい中だということの象徴であったように、そんなようなことで、今回のこの予算はいわゆる各課ともにそれぞれがそれぞれなりに本当に知恵を絞って、一生懸命考え抜いて、そしてこれから先のことも見据えて皆さんが組まれたんだということの象徴案件のような気がするんです。

なので、今回の当日だけの振り返りの中というよりも、全体通しての象徴のような表記にされれば、より市民には分かりやすくなっていくのではないのかなと思うんですが。

○**浜口一利委員長** 余計難しくなってきたな。

濱口委員。

○**濱口正久委員** 定期船課については、課長の話の中にもあったとおり経常経費の削減が困難だと。もうこれ以上無理だというふうな中で、いかに乗客の安心・安全を担保するかというところをを考えて、苦肉の策でこのところを乗客の保険には入っているというところを出してきたんだと思います。これを最終的に決定された執行部側に提示したときに、それでゴーを出したということだと思いますけれども、市長ビジョンの中にもある安心・安全、命に関わるのところから直結するかどうかというところなんですけれども、乗客の安心を担保するために経常経費の削減が困難であったという苦肉の策でここにまで来たというのは、そこまで及んでいるのかなというのは思います。もうでもそれは考え抜いた結果だというふうに思いますので。

○**浜口一利委員長** 二つの意見があると思うんですけども、これについてはこっちのほうでまとめ上げて皆さん方にお知らせしたいと思います。どちらの意見もどうしても私としても委員長報告には載せたいなという思いもあるわけなんですけれども、この4日間のトータルの中でまた考えればいいと思いますけれども。定期船のことについてはそういうことでいきたいと思いますけれども。

他にございませんか、今日1日の中で。

戸上委員。

○戸上 健委員 定期船課長が悩んだ末に出した策と冒頭言いました。リスク覚悟やわな。1隻転覆したらさ、保険で賄えやんわけだから。これ執行部が認めた、市長が認めたということは、市長が政治責任を取ると、腹を切るという覚悟の上やと私は思うんですわ。

○浜口一利委員長 エンジンとかシャフトとか、その保険。船体の保険。

○戸上 健委員 船舶の保険か。

○浜口一利委員長 旅客には、その保険は掛けているということなんですけれども、もうリスクは当然高いと思います、戸上委員の言われるように。

○戸上 健委員 そやわな。

○浜口一利委員長 はい、そうです。

そのあたりを踏まえて、まとめて提示したいと思います。

他にございませんか。定期船課以外で。定期船の中でもいいですけども、今日の振り返りの中で。

よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○浜口一利委員長 それでは、続いて今日までの4日間の出された意見についてどのようにまとめるかということなんですけれども、今、資料をお渡ししてあると思うんですけども、私も資料を1日終わった後いつももらうんですけども、これをどんなふうに変別、選別という言葉はええんかな、捉えてどのようにやっていこうというのは、なかなかの意見もいい意見なんで、私としてはもう先ほどちょっと話も出たんですけども、委員長報告に全て載せるべきだなというような、そのような思いでいるわけなんですけれども、大変長い委員長報告になるかも分かりませんが、もし何かこの件についてご意見があれば、4日間通してのことでお願いしたいと思います。

河村委員。

○河村 孝委員 トータルでの委員長報告については、委員長一任で私はいいいのではないのかなというふうに思います。委員長のお考えどおり、なるだけ委員長報告ということであればこういう意見がありましたということは網羅してもらって、多少長くなっても。大変申し訳ないんですけども、やっていただきたいなど。それだけ委員の思いがあってこの予算委員会の中で発言した内容なんで、その辺は委員長報告でしっかり盛りいただきたいというふうに思います。

ただ、当初、委員長の思いの中に全員で事に当たるんやというところがあったんで、委員長報告はそれでいいと思うんですけども、それぞれ今回の振り返りの皆さんの思いをどういうふうに感じたのか、また、この4日間を通じて新たな思い、削減案みたいなものがあればまたこの場でも言ってもらったらいいいですし、何となく私ばかりしゃべり過ぎておるんで、皆さんに意見を聞くように振ってもらったらいかがかなと思いますけれども。

○浜口一利委員長 4日間の出していただいた提案について、今のような話で今進んでいるところなんですけれども、委員の皆様方、どうでしょうか。ほかに。

(「順番に」の声あり)

○浜口一利委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 4日間通じて感じたことというか、私、改選後初の予算審議ということで、まずは知らないこともたくさんあったなというのが印象なんですけれども、いわゆる市長の所信表明から始まって、各課の議案説明があつてという中で、一張一弛予算という命名だったと思うんですけれども、緩んでいるというか、いわゆるアメとムチのアメの部分があまりない予算だなというのはすごく感じました。

○浜口一利委員長 瀬崎委員、4日間この案件をどんなふうにするかというところに絞ってください。総括……

○瀬崎伸一委員 総括みたいになった。

○浜口一利委員長 総括みたいになったような気になってしまうもので。

この案件をどう処理するかということでお願いしたいと思うんですけれども。

○瀬崎伸一委員 はい、すみません。

私は初日にいわゆる定住施策の部分で金額的にはカットが入っていたところについて意見は述べさせていただいたんですけれども、一つの案として50万円を単価とするのであれば、それを100万円に上げていただいて、件数を調整するような方向でもしてほしいというようなことを言わせていただいたように思うんですけれども、予算の執行権は我々議会にはないのかも分かりませんが、やはりどうしても気になるのは、消防庁舎ができてそこに訓練棟がなくて、中に入る備品はいろんな中古の物をかき集めてというところが、何か解せんなというところがありまして、私的には削減案というものはもう各委員の皆さんが言われたとおりにかなと思うところで、新たによう見つけませんでしたんですけれども、やはり我々の鳥羽市は観光業を営む方々が多くて、いわゆる観光に関するところの基金というのはある程度の金額を持っているという中であるのであれば、消防にも観光からの基金からの繰入れが入って、何らかのいわゆる新しい船出であるところをうまく出してあげてほしいというのがあって、いわゆる漁観連携であるとか、観光と福祉の連携であるとか、各課がやはり観光というものを真ん中に置いて連携を取ろうとしているのであれば、消防もそこに連携を取りに行くということもあってもしかるべきかなというのが4日間通じて感じたことでございます。

削減案にもなりませんし、何もなりませんのやけれども、ぜひ備品ぐらいちゃんと潤沢に用意してあげてほしいというのが意見です。

○浜口一利委員長 私の聞き方もちょっと悪いんですけれども、この範囲の中でどうしてもこれはやっぱり載せたいなという、そういう意見があればということで。

当然、ただいま言われた漁観連携という部分についても触れている項目があるもので、そのあたりは瀬崎委員の意見も踏まえた上で委員長報告という形にはなるかと思えますけれども。

濱口委員。

○濱口正久委員 委員長報告に関しては、委員長一任でいいかなというふうには私は思います。委員長の思いを書いていただいて。これ決算のときにも委員長報告で提言された文言がまた同じように、やっぱりここは議会で重点じゃないかなというところが同じように上がったような気がいたします。定住、まず応援事業に関しても、やはり決算でも出ました。同じ思いです。鳥羽に残ってもうこの厳しい中住んでいただくための応援として、やっぱり私はここは何とかすべきだったのではないかなというふうに思います。



それと、あとは漁観連携のところですか。日本遺産にまで取って今から力を入れようとしているところの海女文化に対して、力点はどこにあったのかなというふうに思います。もちろんここから先、鳥羽市が一番大事な経済の屋台骨となる観光と、その始まりの元であります漁業に関してやっぱりしっかりと取り組まないと、最終的に税収減につながってしまうのではないかなというふうに思われて仕方ないです。

ただ、各課の厳しい中、聞いていて非常に厳しい中、各課が苦心されているんなものをカットしました。その中で私は最後まで思ったのは、木までカットするのかなというような今年の思いがあります。本当に各課を聞いていともう本当にいたたまれないような状況の中、やっぱり市長ビジョンとの整合性に疑問は感じます。

○浜口一利委員長 1 ページの部分、移住・定住と、このあたりは取り上げて……

○浜口一利委員長 これいっぱい、そればかりやな。

○浜口一利委員長 これをどんなふうに言うかということ。

移住・定住の部分と観光、連携な。

山本委員。

○山本哲也委員 そうですね。そこの部分に関しても、僕個人的には言うたとおりになんです。なので、僕からしたらというか、もちろん多いにこしたことはないですけども、よう残したなど逆にね。この金額をよう保ったなどという部分もあります。ひよっとしたら僕もうちょっと下がってくるんじゃないかなと、ここの金額に関しては思っておった部分があったので、現年、下げたながらにしても、よく残したほうなんじゃないかなというところがあります。

あと、ほかにも言ったんですけども、結局なくなってしまっておる部分の代替をどうカバーしていくのかというところですか。例えば子育て応援券にしてもそうですけれども、なくなった部分に関してはそのまますっかりなくなってしもうておるようなイメージです。それにもこの移住・定住応援のところにも通ずるんですけども、下げた分やっぱり鳥羽を選んでもらうほかの理由とかという部分をしっかり担保していかないかんの違うかなというところですか。人口減少というのは真正面から受け止めなあかん部分はあるかとは思いますが、あがかなあかん部分は僕はあるかなと思ってまして、そこに対するところが今回切られてしまっておるところは結構多かったというところはちょっと残念な部分がありますので、そのところ、切られておる部分に対するところ、代わりになるような、何で用意するのか、予算使わへんところでもいろんな工夫はされるんやとは思いますが、そこをもうちょっと明確にしていきたいなというふうに思っています。

なので、全体的に今回振り返って書いていただいているところもありますけれども、私が思うところはその移住・定住の部分、あと子育てにしてもそうですし、あとはちょっと水産のほうですね。やっていこうやというところをちょっと削られてしもうておる部分というところが散見されるのかなというふうに思います。河村委員も言っていただいた種苗放流のところ、また海女継承の部分でもそうですし、その辺は全てリンクしてくる、観光にもリンクしてきますし、というところかなというふうに思いますので、どうしてもそういったところが目立つ予算になってしまっていますけれども、そこを補うところがちょっと弱いかな。

○浜口一利委員長 これまで移住・定住で走ってきた部分をカットしたというあたり、何とか違う事業があればいいわけなんで、理想を言えば山本委員の言われるとおりにだと思うんですけども。

○山本哲也委員 そういったところが今回、目についたかなというふうに思います。

○浜口一利委員長 分かりました。

河村委員、どうぞ。

○河村 孝委員 例えば移住・定住のところのまとめ方というのは、私が言ったこと、正久委員が言ったこと、坂倉委員が言ったこと、戸上委員、瀬崎委員の発言、これをまとめると、基本的にはそこは現状維持もしくは拡充やと。そこは後退してはならないという思いが基本的な考え方だと思うんです。そこについて、山本委員も異論はないと思うんです。

ただ、山本委員が言う理想の話は移住・定住の問題だけではなくて、その予算100万円、50万円の議論ではなくて、全ての鳥羽市の政策に通ずるところであって、例えば住民サービスのところもそうですし、働く場の創出もそうでしょうし、そういう金額面よりもそちらのほうが大事ですよというふうなことを山本委員はおっしゃっていたと思うんで、ここは整理できると思うんです。拡充及びそういった全体を見回して、鳥羽を選んでもらえるような方向を市長のリーダーシップの下にということの報告はできるのではないのかなというふうに思います。そういうまとめ方で各課の事業のところ委員長まとめていただいて、多分四つあると思うんです。

総評がまず1個あると思うんです、これまとめるに当たって。あとは今回の予算委員会の特徴であったそれぞれの委員からの削減案、金額を伴うもの、伴わないもの含めて、ここはもう少し削減できたのではないのかなというところを一つに取りまとめていただくというところ、各委員からここは拡充すべしというところを一つに取りまとめていただく。その中でも先ほどから出ているような海女に対する後退というところは、委員長報告の中でも力点を置いていただきたいというふうに思います。

もう一つ、残りが評価に値するというところは、しっかり議会としてもここは評価に値するといったところが途中で何点か出たと思うんで、その評価というところは評価でしっかりしてあげてほしいなど。そういう四つのカテゴリーの置き方、分類の仕方をして、委員長報告をしていただければいいのではないのかなというふうに思います。

トータルの感想としては、今回の予算編成に当たっての市長の思い、リーダーシップというのはどこにあったのかなというのは、私の中では甚だ疑問に感じたことであります。

以上です。

○浜口一利委員長 坂倉委員、何か。

○坂倉紀男委員 もう今の、代表して。

○浜口一利委員長 この中でぜひとも取り上げたい事業。

○坂倉紀男委員 発言もしなかったこともありまして、これだけの審査の意見が出たわけですから、委員長の努力をしていただきまして、さらにこの中で幾つかでもシーリングを元へ戻すとか、あるいは増やすとかというふうな、今の河村議員の意見やないですけども、非常に心もとない、どこにポイントがあるのかというような、非常に曖昧な予算の組み方で、全体としては要するに増えていながら、各課においてのいろんな事業においては非常に不平不満が渦巻いておるような状態で、私もあまり言うてはいけませんけれども、本当にかかりました。この増えた部分がどこへ行ってしまったんだろうというように、それを探していただきたいと思います。

以上です。

○浜口一利委員長 一番厳しい意見やな。

世古委員、どうですか。

○世古安秀委員 やっぱり全体的に言うて、今回の予算というのはハードの水産研究所にしても、いろんな体育館、サブアリーナにしても消防庁舎にしても、今までやっぱりやらないかんけれども積み残されてきたハード整備を今回はやるということで、非常に窮屈な予算になってしまったと。そういう意味で、様々な生活に関する予算がカットされてきたというふうに思うんです。ほやけれども、これはやっぱりハードな部分に関しては、やらないかんことを今年から手をかけたと——去年からですけれども——いうふうな捉まえ方で、市民にとってもやっぱりプラスな面というのは出てくるんじゃないかなというふうに思います。

具体的に言えば、やっぱり経済を活性化するための予算にもう少しお金を拡充してほしいと。漁業の振興のためには海女さんのいろんな補助も拡充をすべきだろうと思うし、あと観光の産業の活性化のためにも様々な拡充の予算を充てるべきだというふうに思います。まとめというか、最後には熱海市へ総務民生の委員会のときに視察に行ったときに、熱海の齊藤市長は就任してからすぐ財政危機宣言というのを打ち出して、各地区を回ってこういう方法でやるんだということをやっぱり市民に説明はしたわけですよ。そういうことをやっぱり市のほうもやるべきやなかったんかなと。説明がまだまだ十分に市民に行き渡っていないから、どうなっとなねや、どうなっとなねやという不安のほう市民のほうも先に行くんじゃないかなと。今後、今年も含めてそういう説明をすべきだなと。

最終的には、さっき言いましたように経済の活性化のために拡充を観光と、それから漁業、海女さんのほうにも応援をしてもらいたいというふうに。

もう一つ、僕も言いましたけれども、鳥羽ファンクラブというのをつくりましたので、スタートさせるということで。それを経済の活性化につなげるような、そういうふうな取組にしてほしい。これはもう大事な取組だなというふうに僕は評価をしています。

○浜口一利委員長 評価の提案はそのあたりを入れたいと思います。

○世古安秀委員 はい、そうです。

以上です。ちょっと長くなりましたけれども。

○浜口一利委員長 当然、予算全体で見ればそんな一面があろうかと思いますが、できるだけその中で絞ってほしいなと思いますんで。

○奥村 敦委員 振り返りのほうで皆さんの意見が出たのをしっかりとこれまとめていただいていると思います。それで、これがどうのこうのということもないんですけども、皆さんの意見と同じで、河村委員とも同じなんですけれども、移住・定住にしましてもやっぱり拡充の部分が必要であるという部分と、細かいところは別にしまして、あと評価する部分と、拡充の部分と、やはりそこら辺の部分のをこれまとめるの大変だと思いますけれども、委員長に一任して、というところをお願いしたいなと思いますけれども。

○浜口一利委員長 昨日からどんなにまとめようというところ、意見を聞いておったんですけども、なかなかまとめづらいというところなんで。

○奥村 敦委員 お願いします。

○浜口一利委員長 言われるところはやはり移住・定住の部分、このあたりはやっぱり心配しているという部分は強調して言うべきかなということだと思っので、そのようなことで奥村委員の意見をまた反映させるような形で、全員の思いなんです。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 4日間、大変、委員長、お疲れさまでした。

今回の本当に執行部の方も大変だったという予算組みをされたということがにじみ出たように思います。今まであんまり緊縮財政とかそういう言葉は委員会の中で聞いたこと私もなかったように思うんですけども、河村委員がおっしゃられた若い人の手だてというんか、そういうところで私はすごく心配をしております。今回の移住ももちろんですけども、ここで住む人の手だてというのをどれだけ確保していくかということ、住みやすいまちだと思いますので、それに目指していくのは何なのかということもまた出てくれば、夢もかなえられるような鳥羽市になっていただきたいと、こう思っておりますし、委員長一任で私もここはお願いしたいと思っます。

それとすみません、やっぱり私もずっと心配しているのは獣害対策です。もう本当に猿、イノシシ、非常に増えているということですので、そのところもぜひ委員長報告の中に入れていただきたいと思っしております。

以上です。

○浜口一利委員長 獣害の文言。質問は出たけれども、この中には入っていないけれども、またそういう意見があったというも。何か余計長くなっていくような感じがするけれども。

片岡委員、よろしいか。この中でどうしてもこのあたりはやっぱり言うべきだという部分があればということ。

○片岡直博委員 全体的なんですけれども、各議員さん、こういう意見、削減に対する意見、厳しい意見述べられておるんですけども、鳥羽市の120億円という借金を考えると痛みを伴うと僕は思うんですよ。その痛みというのはどの事業もどの事業もみんな削減していいわけがない。市民には痛みを味わう。そこら辺の兼ね合いが僕はあると思っます。うまく言えないんですけども、これぐらいで。

○浜口一利委員長 アート事業というのもやっぱり重荷になっておる部分、そのあたりで削減という形にならざるを得んという部分。

南川委員。

○南川則之委員 委員長報告については、もう私も委員長に一任ということでよろしくお願っします。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。

○南川則之委員 今回まとめてもらったものを含めて、今日の分も含めてまとめてもらったらいと思っます。

それと、まとめ方のいろんな手法についても委員長に一任しますけれども、河村委員が言われたようなまとめ方というのは、本当にスムーズというか分かりやすいということで、それも一つの案やと思っますのでよろしくお願っいたします。

以上です。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。

戸上委員。

○戸上 健委員 僕は議会として予算修正権、これを発揮すべきだと思います。海女にしても移住・定住にしてもいろんな市民サービスにしても、次々カットしてきたわけで、議会としてはこれは譲れないというのをみんな出したはずです。それをちょっとまとめてして修正すると、修正権限を発揮するというのを私はすべきだというふうに思うんです。

それで、今日の新聞に小寺めぐみさんが全国表彰されたという、市長とのツーショットの写真出ておりました。あれ6次産業化で最初の予算、今年で3年目、4年目か。70万円やったのが新年度予算では20万円です。3分の1以下に削られておる。ああいう人たちが芽生えてきておるのに、冷水をかけるような新年度予算に僕はなっておるというふうに思うんです。

それで、審議の中でも出ていましたけれども、副議長が指摘したこれはもう全廃すると。じゃ何に代えるのかと。そういう対案もないと。これはもう全廃するという方向です。そして、正久さんが指摘しておったいきいきお出かけ券にしても、これまで離島住民を中心にあの制度によって効果があったはずなんですわ。効果はこうだったと、問題点はこうだと。だからこういうふうに改善するというんならまだ分かりますけれども、それも何もなままもう廃止するということです。審議の過程の中で新たに分かったものもあります。市民運動会、これは近辺にありません。鳥羽だけです。市民もたくさんこれを期待しておるといふか、待ち望んでおる人もおるんです。これもう2年間やめるといふ方向だというのが明らかになりました。

そやもんで、僕は今回の予算を議会が、委員長報告は僕は任せます。こういう利点があると、これは新しい方向だといふのは大いに評価してやって差し支えないというふうに思うんですけれども、このまますんなり議会が認めたら、一体議会は何しとんのやといふ僕は指摘を受けるというふうに思うんです。ほやもんで、みんなからこれだけは最低限譲れないと、復活するといふのを幾つか出して、そして頑張る必要があるといふふうに思います。執行部もその覚悟やといふふうに思うんですわ。議会で叩かれると。修正もかけられるといふのを覚悟の上で、今回の予算は出してきておるといふふうに思うんです。それを議会が僕はすんなり認めるわけにはいかんといふふうに思います。

そして、先ほども出ておったけれども、世古さんがおっしゃったけれども、熱海の例をひいていましたわな。市長が自ら全町内会回って、そして住民にこういう予算を組みましたと。私の存念はこうですといふのを説得に回らなあかんと。それぐらいのことだといふふうに私は思います。

そして、全員でやるということではできやんもんで、正副議長と、それから予算委員長と、文教と総務のそれぞれ委員長の5人で市長と副市長とトップ会談やって、ほいで議会はこれは譲れやんと、これはもう修正せえといふ場を設けてもらいたい。そうやないと、今日採決するんか。

○浜口一利委員長 今日、採決します。

○戸上 健委員 今日、採決するんやろう。

○浜口一利委員長 はい。

○戸上 健委員 ほんなもの、生煮えのまま挙手ということは、僕はできやんといふふうに思うんです。

○浜口一利委員長 厳しい意見やな。

○戸上 健委員 もう議会の逆なでする予算やわな。海女さん条例も我々議会が制定して力入れてきて、ほいで

市民文化会館の前に大きな垂れ幕、世界遺産ですという垂れ幕までかけておっさ、もうあんた予算は激減しましたというのではさ、議会の存在価値あらへんわな、これ、と私は思います。それで、市長にしても予算はこうだけれども、予算はかけない面で市民サービスをこういうふうに向ささせますというのを僕はあつてしかるべきだと思うんですわ。もう市民が市役所へ来たら、全職員がにこやかに明るく元気におはようございます、こんにちはと行って迎えますというようなことをするとか、何らかのことを考えやんとさ、こんなものあんた市民サービスずたずたにしておいてやで、市役所の態度はこれまでも変わりませんと。

みんな難儀しておるわけやさ。苦心惨憺したと。悩みに悩んだと課長連中も言うとするわけやさ。そうするとさ、モチベーションは下がっておるわけやわな。そうやろう。ほいで議会があんたそれを鼓舞激励してやるためには、僕はそういうことが大事やないかというふうに思います。

(「ちょっといいか」の声あり)

○浜口一利委員長 はい。

○河村 孝委員 修正、組み替えの提案なんですけれども、私も当初その覚悟でこの予算委員会に臨んで、だからこそ自分なりの削減案も、この予算をこっちへ振り替えるべきだということで、対案を出しながら話ししてきたんです。だから戸上委員のおっしゃるような話は99%賛成なんです、私は。もうそれだけ私の中でも思いが強くて、今回の予算は議会はそこまで徹底的にいくべしというのは99%賛成だったんですけれども、私は賛成に回ろうと思っています。

その残りの1%は新型コロナウイルス、たびたび審議の中でも出てきていましたけれども、まずその予防にしっかり市民ニーズに対応するという体制を執行部、市長リーダーシップの下、まずそれを率先してやってもらわなければなりません。その後続く経済対策をもう各課思いはあるし、恐らく補正でも上がってくるとは思いますけれども、そこに僕は全力で向かってもらうために、あえて今回は賛成に回らざるを得ないのではないのかなというふうに認識していて、99%戸上さんに賛成です。だから私は討論の中で、市長への思い、市長ビジョンに対する思い、私の思い、どこにリーダーシップがあったのかという話を、私の思いは討論の中で明確にしたいなと思いますけれども、各委員長と正副議長とで協議してくれというところは、私はちょっと少し待ってほしいなというふうに思っておるんです。99%は賛成ですけれども。

○浜口一利委員長 今回の予算委員通じてのみんな各委員には、戸上委員の言われる部分というのは感じているというより、本当にこれでいいのかという思いは皆あると思いますけれども、私は委員長ですもんで、河村委員のようなことはまだ私は言うことできませんけれども、これについてはやはりそれぞれ採決取って、もし戸上委員の言われるようなこと、否決になれば、当然そのようなことを考えなければいけないことなんで。

いいですよ。

(「よろしいですか」の声あり)

○浜口一利委員長 はい。

○濱口正久委員 戸上さん言われることは非常にもっともです。私も何回か質疑もさせていただいた中で、思いを言わせていただきました。市長ビジョンとの整合性、優先順位、全く理解ができない部分が多々あります。

ただ、一般質問の中でも私言わせてもらいましたけれども、今、河村議員と同じ意見なんですけれども、経済対策を早く次の手、1手、2手を打たなければならないときに、この仕事をまた増やしてしかるべきかとい

うところと、あと各課が苦渋したものに対しては非常に不満があります、私のお出かけ券に対しても。ただ、今すぐにじゃやれるかと思ったら、やれるような返答ではなかったというところで、もうこれ次の機会までに、早い段階で新しい策を打っていただきたいなというふうに思う中でも、私はもう苦渋の選択の中で賛成させていただきたいなというふうに、私は個人的には考えています。

○浜口一利委員長 まだ表決の前なんで。

もうここで討論してという。それでもいいんですけども。

(「委員長」の声あり)

○浜口一利委員長 はい。

○河村 孝委員 お昼なんで、戸上委員の提案というのはもうすごく重たいものなんで、お昼挟んでからも再開したらいかがでしょう。一時休憩して。それはもうみんなの意見も聞かないかんので。

○浜口一利委員長 どうですか。引き続いて午後から時間取って。

(「やりましょう」の声あり)

○浜口一利委員長 ただ一つ、私からはどうしてもこの中で、4日間の意見の中で、説明資料とかそのあたり、やはり申入れはぜひともしてくださいという意見があったかと思うんで、そのあたりはきっちり議長、副議長と協議しながら、当然申入れするべきところはきっちり申入れをしたいと思います。それだけは言うておきます。

そういうことで、午後からは1時から再開をしたいと思います。どうもご苦労さまでした。

(午後 0時05分 休憩)

---

(午後 3時34分 再開)

○浜口一利委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

河村委員。

○河村 孝委員 採決に移る前に、附帯決議案を提出したいと思いますので許可を求めます。

○浜口一利委員長 ただいま河村委員より、議案第67号、令和2年度鳥羽市一般会計予算に対する附帯決議の提出について申し出がありましたので許可をします。

事務局、配付してください。

議案を採決後、可決となった場合には附帯決議案を採決することになります。

それでは、ただいまから採決を行います。

お諮りします。

議案第67号、令和2年度鳥羽市一般会計予算について、原案どおり可決することに賛成の諸君は起立を願います。

(起立多数)

○浜口一利委員長 ありがとうございます。起立多数であります。

よって、議案第67号は原案どおり可決することに決定しました。

議案第67号が可決されましたので、河村委員に附帯決議案の朗読をお願いいたします。

河村委員。

○河村 孝委員 座ったまま失礼します。

令和2年度鳥羽市一般会計予算に対する附帯決議案であります。

議案第67号、令和2年度鳥羽市一般会計予算は市長の思いと市民及び議員が受ける思いが乖離していることが多く見受けられた。今後は市民目線に立った予算編成とともに、市長の強いリーダーシップの下に鳥羽市を明るい方向へ導いていただきたい。

なお、このたびの当初予算案に対し、特に以下の事項について強く求める。

重要施策と考える海女振興策や移住・定住策の促進、子育て支援などに大きな後退が見られた。議会としてはこの方向性に対して疑義があることをここで申し立て、今後はこれらのことに対する予算措置を含めて育てていくこと。

以上であります。

○浜口一利委員長 それでは、議案第67号、令和2年度鳥羽市一般会計予算に対する附帯決議案について、賛成の諸君は起立を願います。

(起立全員)

○浜口一利委員長 ありがとうございます。起立全員であります。

よって、議案第67号、令和2年度鳥羽市一般会計予算に対する附帯決議案は可決いたしました。

次に、議案第68号、令和2年度鳥羽市国民健康保険事業特別会計予算について、原案どおり可決することに賛成の諸君は起立を願います。

(起立全員)

○浜口一利委員長 ありがとうございます。起立全員であります。

よって、議案第68号は原案どおり可決することに決定しました。

次に、議案第69号、令和2年度鳥羽市介護保険事業特別会計予算について、原案どおり可決することに賛成の諸君は起立を願います。

(起立全員)

○浜口一利委員長 ありがとうございます。起立全員であります。

よって、議案第69号は原案どおり可決することに決定しました。

次に、議案第70号、令和2年度鳥羽市定期航路事業特別会計予算について、原案どおり可決することに賛成の諸君は起立を願います。

(起立全員)

○浜口一利委員長 ありがとうございます。起立全員であります。

よって、議案第70号は原案どおり可決することに決定しました。

次に、議案第71号、令和2年度鳥羽市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について、原案どおり可決することに賛成の諸君は起立を願います。

(起立全員)

○浜口一利委員長 ありがとうございます。起立全員であります。



よって、議案第71号は原案どおり可決することに決定しました。

次に、議案第72号、令和2年度鳥羽市後期高齢者医療特別会計予算について、原案どおり可決することに賛成の諸君は起立を願います。

(起立全員)

○浜口一利委員長 ありがとうございます。起立全員であります。

よって、議案第72号は原案どおり可決することに決定しました。

次に、議案第73号、令和2年度鳥羽市水道事業会計予算について、原案どおり可決することに賛成の諸君は起立を願います。

(起立全員)

○浜口一利委員長 ありがとうございます。起立全員であります。

よって、議案第73号は原案どおり可決することに決定しました。

中村市長に出席をいただきました。市長は令和2年度各当初予算の審査状況を執務室の自席でご覧いただいたかと思いますが、感想あるいは気になったことなどありましたら一言頂戴したいと思います。

市長。

○中村市長 新年度予算をお認めいただきまして、まことにありがとうございます。

執務室のほうでは来客等もあり、全部を傍聴させていただいたわけではないんですけども、皆さんの熱心なご議論は時間を見つけて聞かせていただいております。貴重な意見、中には厳しい意見、あるいは厳しい表現があったことも重々承知をしております。私としては、財政厳しい中でも市民サービスの低下を最小限にとどめ、補助金の獲得とか職員の頑張りがあって、やるべきことをやる予算が組み上がってきたものだという自負もありました。また、その中には厳しい中でも鳥羽らしい特徴も、明るい希望も備えた予算にでき上がったと思っておりましたので、厳しい中でもよく頑張った予算と評価もいただけるものと思っておりましたけれども、本当に厳しい意見もたくさんあって、自分としては耳の痛いところもあって、悔しい思いもさせていただきました。

今回は財政健全化の下、時間をかけてバックキャストという手法も使いながら検討をしてみました。66年前に鳥羽市が発足して、当時は3万人、そして20年後には1万人になろうとしているこの市でありますので、今までと同じでいいわけがないと。そして、危機宣言をする前にぜひ何とか踏みとどまりたいという強い思いがあって、いつやるかということを随分考えまして、急にするというわけではないんですけども、昨年からの財政健全化の取組を始めさせていただいたところでございます。

議論のほうを聞かせていただきますと、市長ビジョンのことであるとか、コップの中に何を入れるかというような表現の中に、私としては、自分としては大変説明不足だったなということも感じております。その点につきまして、最も私、反省しているところでございます。

一番最初に一張一弛予算という言い方もさせていただきましたけれども、20年後に1万人になることを見据えて、私としては悲観的に準備をして、楽観的に行動をしていきたいというふうに思っております。ちょっときつい目に予想し過ぎたな、でも最終的にはそのくらいでよかったと言えるようなこれからのなればいいなというふうに思っております。

あと、廃止や減額のところで議論もたくさんございましたけれども、それについて少し触れたいんですが、水産研究所は漁業の振興に寄与するのはもちろんですけれども、何度も説明もさせていただきましたけれども、これからの鳥羽市の教育あるいは観光についても十分連携を前提に考えておる施設でございますし、県や国やほかの大学、教育機関とも連携して世界へ発信をしていける、ほかの地域から見れば羨ましがられるような夢と希望を持った施設だというふうに思っております。

そして、ほかにも市民サービスの低下のことも言われましたけれども、移動販売車の実現等、試行から実現のほうへ一歩踏み出したという点も頑張ったのではないかなというふうに思っております。

また、市民文化会館の機能が停止しておりましたけれども、こちらも国の補助を受けて、しかも国体の施設としても活用しつつ、新しく、少し小さくはなりましたけれども、市民サービスに寄与できることだというふうに思っております。

そして、こういう予算の議論には出てきませんが、お金をかけずにゼロ予算でできるサービスのほうもそれぞれの課は持っておりますので、本当いうとそういうゼロでもできることも含めての予算ではないかなというふうに思っております。これも年度始まってから、また皆さんにも見ていただきたいというふうに思っております。

最後になりますけれども、ここでこうして皆さんに感想の中でこうやって言わなければならないということ自体が私の反省点でございます。本当に可決をしていただいたことについては、感謝申し上げたいというふうに思います。委員長におかれましては、意見をたくさん、私にとってみたら意見を拾い過ぎるなと思ったところもありますけれども、本当に貴重な議論をしていただいて、私も自信のあった予算ではありますけれども、それらの声を加味して、より一層いい事業、いい1年につながるように頑張っていきたいというふうに思います。どうもありがとうございました。

○**浜口一利委員長** 市長、ありがとうございました。

続いて、副市長、もう4日間、本当にいろいろ直接我々の意見を聞いたということで、立花副市長には4日間出席をいただきました。今回の感想など、一言頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

副市長。

○**立花副市長** 委員長のおっしゃられるとおり、4日間ずっとお話を聞かせていただきました。また、今回の予算編成に関しましては長い間準備をして、課長への説明も含めて、私どもも編成の議論の中にも例年以上に加わらせていただきましてやってまいりました。それだけにちょっと申し上げたいこともたくさんあるんですけれども。

まず、一番大切にしてきたことというのは、少子高齢化、人口減少問題、この問題というのが一番大きな問題かなと思うんです。20年後を見据えたということで、それを人口減少ができる限り緩やかになるように最大限あがくことはあがいて、努力していくことは当然大事なことだと思いますけれども、ただし客観的事実であることについては、受け入れざるを得ない状況にあるのかなというふうに思っております。よく消滅というような話がありますけれども、実態としての体が消滅するという意味合いかなと思っております。人は半分になっても残っておりますので、そこにお住みになってみえる方々が不幸になっては、これは元も子もありませんので、そういうことを見据えてやっていくということは非常に大事な事かなと思って、SDGsの話じ

やないですけども、持続可能な行財政運営ということが一番主眼に置いていくべきかなというふうに思っ、  
ずっとそれは根底のところを持って対応してきたというつもりでございます。

でも、困ったときとか、困ったことについて市役所に頼っていただくのは大変ありがたいことですし、そう  
いう頼っていただくときに対応できる庁にしなければならないとは思っておりますけれども、これから20年  
先を見てくると、今までのように何でもかんでもというふうなことは難しいかなというふうなことは、考  
えに入れておかんといかんのかなというふうに思っております。20年後の役所のあるべき姿というのを見据えな  
がらそこにうまく移行していく、こういう作業も必要なんじゃないかなというふうなことで、それが昨年  
に始まり、今年度予算、結構ちょっとコップの議論もありまして、顕在化してまいったことかと思  
います。

軌道修正していく中で、コップの理論とか経常経費の97%キャップとか、聖域なしに一応やってみよう  
ということで、大変これについては私は意義があったと思っております。その過程で税務課からも話があ  
ったようなよい副産物も生まれましたし、また反面いろんな副作用もあったかと思  
います。ただし、コップの理論に  
つきましても、削減一辺倒ではなく削減、拡大、複数の事業があったりとか、新規施策ありの条件で行いま  
したし、97%につきましても決めつけないでチャレンジするというところに重きを置きました。補助金につ  
きましても、期限を決めずにこれまでやってまいりましたが、それもちょうと補助要綱等を見直しも併せてや  
るというふうなことで、補助を受けてみえる皆さんにも丁寧にお話をしながら、できる限り納得して  
いくことを基本にやってまいりました。

ちょっと速聴、カット一辺倒の厳命で行っているようにちょっと捉えたのは少し残念で、状況に関しま  
しては気張るところは気張って、責任持って対応していただくのが本来の姿かなと思  
っておりますので、そのよ  
うにさせていただいたと思っておりますが、ちょっと市民サービスのカットが市長厳命のような感じにな  
って、カットマシーンみたいな感じのところになって、お話が市長は血も涙もないんかなというよ  
うなところが、非常に私にとってはちょっと残念というか、市長自らの見せ方とか経緯とか、もう少し丁寧な説明も必要であ  
ったかというふうな反省もしているところです。もう少し責任を持った説明ができればとは、私からも不足の説  
明ができればとか反省点はいろいろありますけれども、何分、簡潔な説明がなかなか難しい部分もある  
ところもありまして、ちょっと大いに反省をしているところでございます。

ただ、市長も来年選挙を控えておりまして、なぜ今なのかというところについては、今後のことを思  
ったときに幸せを感じられる施策を行っていく、また、市の役割はどうなんかなというふうな  
ことと天秤にかけながら決断されたものと私は思います。私もこの予算編成の作業、非常に辛い  
ものがあって、連日夜までやっている中で本当につらい胃の痛むような思いをしてまい  
りましたけれども、ひとつそのところには軸足を置いてやってきたものかと思  
います。

まだやっぱり副作用という今話をしましたけれども、失ったもの、いろんなものも  
ありますので、そのこと  
もあります。それと、附帯決議をいただいたことは十分に肝に銘じて、来年度の予算執行  
をしていきたいなというふうに思っております。

長くなりましたけれども以上でございます。ありがとうございました。

○浜口一利委員長 副市長、ありがとうございました。

それでは、次に退職の課長、ここにおられますので、本当にこの1年間かけて予算編成に当たったという、

本当に大変厳しい1年だったようにも思いますけれども、そのあたりも含めて一言お願いしたいと思います。  
企画財政課長。

○山下企画財政課長 失礼します。

まずは、予算決算常任委員会で可決をいただきました。本当によかったです。ありがとうございます。

それでは、退職に当たりまして一言ご挨拶申し上げます。

私は市役所生活37年間でございます。議員の皆様本当に大変お世話になりました。議会との思い出は二つ例に出して説明します。

一つ目は、平成18年度に私は税務課の特滞の係へ行きました。そのときに、当時11億5,600万円の滞納繰越額がありまして、このことを何とかせよという命令の中でやってきました。その際に、民法の中で口頭承認、いわゆる口約束の問題がありまして、これが時効に関するということで全国的にも問題になりました。それで、このことを全員協議会で説明をして、厳しいご指摘もいただきました。その後、職員一丸となって頑張ってきましたので、そのことが当時71.6%の徴収率でしたけれども、13年ぐらいたってきまして94.6%になりました。そこにつながったという意味では、頑張ったというふうに思っています。

それから、二つ目は真珠議会の開催です。平成23年6月に真珠議会の開催をお願いしまして、開くことができました。第1回のときはコーラスグループのはまおぎさんをお迎えしまして、その後は小学校の子供たちに議場に入っていただいて、大きな声で歌が響くというのは非常にうれしかったです。そして、皆さんに真珠製品をつけてもらうこともそれから始まりましたので、非常によかったというふうに思っています。いろんなことがありましたけれども、本当にお世話になりました。

最後になりますけれども、議員の皆様も健康には十分気をつけていただきまして、引き続きびしばしとまたご指導のほどよろしく申し上げます。

以上でございます。(拍手)

○浜口一利委員長 課長、ありがとうございました。

私ももう本当に古い議員になってしましまして、課長とは、課長は先ほど37年間ということをおっしゃったわけでありましてけれども、私ももう随分昔からというような感覚でいろいろつき合いをさせていただきました。本当にありがとうございました。そして、本当にご苦労さまでございました。

続いて、消防次長、お願いしたいと思います。

鳥谷尾次長。

○鳥谷尾消防次長 起立させていただきます。

貴重な時間をいただきましてありがとうございます。

私は高校卒業してから、42年間消防行政をさせていただきました。これもたくさんの方々のご指導、ご協力をいただきまして、定年退職を迎えられることに対して本当に心から厚くお礼を申し上げます。

簡単ではございますが、議員の皆さんまだまだこれから鳥羽市、正念場を迎えると思いますので、先ほど言われたように体調管理には十分気をつけていただいて、鳥羽市のために活動していただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。(拍手)

○浜口一利委員長 次長、どうもありがとうございます。

それでは、本来でありますと各委員のほうから総括的なお話をということもあったわけなんですけれども、今日は私のほうから、委員会の総括ということでもないんですけれども、私の感想というところで一方的な話になろうかとは思いますが、どうかお聞きください。

冒頭から副市長、企画財政課長の例年にないお話、挨拶があって、その中で財政健全化の厳しい思いの中で始まった予算委員会だったように思います。当初から少し違った例年にない中で始まった予算委員会、審議だったように思います。委員も事前に勉強、また調査をしていただいて臨んでいただき、深い議論が数多くあったように思います。その中で経常経費削減によって新しい施策をとるか、そのような提案もあったかと思えます。これまでより一歩進んだ委員会だったように私は感じております。

市長は先ほど私の委員会の進行についていろいろご意見いただきましたけれども、私は予算委員長を引き受けてから、やはり審議は少し長くなっていいけれども、いろいろ議員としての意見を言ってくださいというような方法で進めているわけなので、優柔不断なところも多々あっていろいろ本当に迷惑はかけたとは思いますが、そのような思いで今後も予算委員長のほうを努めさせていただきます。

全てに私、今言及できないんですけれども、一つの例を挙げて言いますが、まず今年度、関係人口増の方向性が出されたと思います。これまで地方創生、移住・定住、交流人口増、人口減対策が柱だったように思います。関係人口増といってもどのような仕組みでということなんですけれども、地域の団体活動があってこそつながりがある。その中に人があってこそ、地域で、社会で活躍する人があってこそ都会の人との関係が構築できる、そのように思います。地域社会団体の活動を支援することが大切ではないのかなと思いました。これまで移住・定住政策、交流人口増の施策の上に関係があると私は思います。これまで移住・定住、子育て支援などを推進してきましたが、今回の予算でやはり感じたことは、そこが削減されていることで大変議論があったように思います。ほかにもいろいろあろうと思いますが、この件についてはここまでにしておきたいと思えますけれども。

また、総合的なところでは、いつも重点施策で挙げてもらっています説明資料の中でなんですけれども、私はそれで鳥羽市の方向性がわかる、そのことについて議論すればよいと、それまでの予算委員会ではそのような考えでございました。今回は市長ビジョンがその中に加わってまいりました。何か私の印象では、苦言を言うところもあろうかと思えますけれども、かえって何かその方向性が分かりづらくなったような感があります。市長ビジョンは今の中央公園の整備、文化会館、体育館、公園整備によって市民が集い、憩いのゾーンがあり、心が豊かになってもらうことで、私はそれでいいと思っていたところなので、あえてこのようなことを言わせていただきます。そこを強調して市民に理解を得る、そのようなことがよかったのではないかなと思っております。

そして、ハード事業で財政出動が大きくなって、財政健全化を目指している、このことについても市長から何年我慢して、明確な発信を市民に、そのような説明をこれからしっかりやってほしい、そのように思っております。本当に私も苦言というようなことになってしまったわけなんですけれども、この予算委員会を通じて、4日間常に家へ帰ってそのことをちょっと考えたようなことなんて言わせていただきました。本当に予算を1年通じて作成するというのは大変な労力があって、企画財政課長のほうも至らないところ、ちょっと配慮できない部分もあったかと思うというような、違うところでそんな話もあったわけなんですけれども、そのあた

りは各委員もちゃんと分かっていただけだと思います。

そういうことで、私の予算委員会の感想ということでどうかお聞きおきください。どうもありがとうございました。

以上をもちまして……

(「議長は」の声あり)

○浜口一利委員長 議長、事前に言うたらええって言うんやけれども、言うか。

それでは、突然振ったわけなんですけれども、議長。

○木下順一議長 まずもって、委員の皆さんそして委員長、副市長と4日間にわたりまして、慎重審議本当にお疲れさんでございました。細かいことは今もうきれいに委員長のほうでまとめていただきましたんで、もう私がつべこべ言うこともないと思います。

ただ、もうこの委員会の中で令和2年度の予算が可決をされたということですので、令和2年度に向けて委員のご意見等々も踏まえながら、職員一同で頑張っていたきたいと思います。特に市長には、附帯決議の中にもありましたけれどもリーダーシップを発揮されまして、後ろにも横にも市長を支える職員がおりますんで、その人たちの気持ちを大いに酌んでいただいて、議員共々鳥羽市のために令和2年度を頑張り抜いていただきたい、そのような思いであります。

以上です。

○浜口一利委員長 議長、ありがとうございました。どうも気がつきませんすみません。

それでは、以上をもちまして本日の委員会を終結しますが、当初予算審査に係る委員長報告については、委員長にご一任お願いをします。

本日はこれもちまして散会いたします。どうもありがとうございました。

(午後 4時07分 散会)

---

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和2年3月19日

予算決算常任委員長 浜 口 一 利